

国立国語研究所学術情報リポジトリ

沖縄・瀬底島方言

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003032

方言録音資料シリーズ-12

沖繩・瀬底島方言

国立国語研究所編

1 9 7 1

このテキストは、方言研究のための資料としてつくられたものであり、録音テープは国立国語研究所に保管されている。

この巻に収めた方言の録音とテキストの作成とは、国立国語研究所話しことば研究室のもとに
応じてすべて内間直仁（東京都立大学大学院博士課程在学中、方言学専攻）が行なった。

なお、採録地点は内間の故郷である。

も く じ

採録地点とその方言について	1
本 文	
Ⅰ 上間幸次郎氏の自然会話	7
1. 瀬底島のノロと門中について	8
2. 初代ノロについての逸話	17
Ⅱ 上間真好氏の自然会話	19
1. 島の概説	20
2. 瀬底島の年中行事について	32
3. 下男奉公について	42
4. 下男奉公についての笑い話と悲しい話	48
注 記	53
瀬底島略図	61

採録地点とその方言について

1. 採録地点

沖縄本部町字瀬底

2. 地点の概観

瀬底島は沖縄本島北部、本部半島の海上、約500メートルに浮ぶ小さな島である。その西側の海上には水納島、北西の海上には伊江島がある。

瀬底島は周囲が約8.5キロ、総面積約280万平方メートル、人口2,300名、戸数320戸の一つの区である。学校は小中校の併置校が一つあって、生徒数は約400名である。農業が主で、砂糖キビ、煙草栽培がさかんである。本島との交通は鉄船で行なわれている。日常の買い物は島内にある組合店や売店で済ませているが、正月、盆等の大きな買い物は本部町渡久地の町に出かける。日常でも渡久地との交通ははげしい。たとえば、町役所につとめているとか、パイン工場で働いている人々が多いが、その人々は島から通勤している。瀬底方言は渡久地方言とは少々異なる。それが今ではだんだん渡久地方言の影響を受けつつある。沖縄北部にはもう一つの大きな街、名護があるが、瀬底方言は名護よりもむしろ渡久地からの影響が大である。

3. 瀬底方言について

瀬底方言は沖縄方言の区画からすれば、沖縄本島北部方言に属する。

3.1 音 声

国立国語研究所・話しことば研究室指定の記号によって、モーラを示すと、次の通りになる。

?i	?e	?a	?o	?u	?ja	?jo	?ju	?wa	?N	
hi	he	ha	ho	hu	hja	hjo	hju	hwa		
,i	,e	,a	,o	,u	,ja	,jo	,ju	,we	,wa	,N
ki	ke	ka	ko	ku	kja			kwe	kwa	
gi	ge	ga	go	gu	gja			gwe	gwa	
ci					cje	cja	cjo	cju		
zi					zje	zja	zjo	zju		
ti	te	ta	to	tu						
si		sa	so	su	sje	sja		sju		
ni	ne	na	no	nu						
ri	re	ra	ro	ru						
Pi	pe	pa	po	pu	pja		pju			
bi	be	ba	bo	bu	bja	bjo	bju			
mi	me	ma	mo	mu	mja	mjo				
q										

3. 1. 1 おもな音声的特徴

つぎに、おもな音声的特徴を列挙する。

- 1) 喉頭音〔ʔ〕があり、母音と撥音Nの前にあらわれる。ʔaiN
《ある》など。また、喉頭・摩擦・無声の〔h〕に対して、喉頭・摩擦・有聲の、を認めなければならないが、テキストでは特に表記していない。
- 2) ,はi, eの前では〔j〕, uの前では〔w〕に近い摩擦をともなう。
- 3) hはi, eの前では〔ç〕, uの前では〔φ〕, それ以外の母音の前では〔h〕である。なお, hwaは〔φa〕である。
- 4) ガ行子音gは語中においても破裂音である。

- 5) [tʃi] [tʃa] [tʃə] [tʃo] [tʃu]はあるが, [tsi] [tse] [tʃa] [tʃo] [tʃu]はない。その有声子音[dʒ]についても同様である。
- 6) sはi, eの前では[ʃ]である。従って, [si] [se]はない。
- 7) [d]と[r]は自由替乗の関係にあって, その違いによって意味の区別をすることはない(従って, 一つの音素に該当する)。
- 8) 有気・無気の違いはない。
- 9) ti, tu, di, duがある。p音も存する。
- 10) 促音qは語頭, 語尾にはあられない。
- 11) 撥音でʔNは語頭にのみ, ʼNは語頭, 語中, 語尾いずれにもあられる。
- なお, []に入れてある記号は国際音声字母で, 説明の補助手段として用いた。

3.1.2 共通語との対応関係

当稿は音韻レベルでの記述を目的とするものではないから, 対応関係も詳しく述べられないが, 音声レベルでごく簡単にふれておきたい。

1) 母音

母音は次のように対応する。

共通語	a	i	u	e	o
当方言	a	i	u	i	u

共通語のe, oが当方言でi, uとなるが, これは沖縄方言では一般的である。なお, 語例についてはテキストの資料を参照のこと。

2) 連母音

共通語	ai	ae	ao	au
当方言	e:	e:	o:	o:

この対応も沖縄方言においては一般的である。

3) 前の形式の末尾音が - u, - i で、これに係助詞 ja《は》が接すると、次のような変化が起る場合がある。

- u + ja → - o: 例 ?atu《後》 + ja → ?ato:《後は》

- i + ja → - e: 例 ?ari《あれ》 + ja → ?are:《あれは》

4) 子 音

△共通語のカ・コが当方言では ha・hu になる場合がある、その傾向は語頭において著しい。

△共通語のハが当方言では hwa になり、ヒ・ヘが pi になる傾向が強い。

△共通語のリは当方言では i である。

△語中で w 子音が脱落する傾向がある

例 ha:《川》 ta:ra《俵》

△共通語のス・ズ・ツは si・zi・ci なる。

以上が共通語との対応関係である。その他の音についてはそんなに共通語とかわらない。たとえば、共通語のサ行子音は当方言でも s である。

3.2 文 法

特に著しい文法的特徴をあげる。

- 1) 動詞の基本形は共通語の基本形にそのまま対応しない。たとえば、hakuN《書く》は共通語の「書く」にそのまま対応しない。服部四郎博士はそれを「連用形+居り」の結合したものであると説かれ、平山輝男博士は「連用形+居る+もの(を)」の融合変化してできたものであると説かれる。いずれにしても、それは共通語の「書く」にそのまま対応することはなく、そのために、沖縄方言の動詞の活用は非常に複雑になっている。
- 2) 形容詞の基本形も共通語の形容詞の基本形にそのまま対応しない。

たとえば, takasaN 《高い》は「高サ+アリ」の変化したものだといわれている。

3) 助 詞

△格助詞はしばしば文中でよく省略される。

Kumu: ne:N《雲がない》…… nu 《が》の省略

nuru naihwezimai 《ノロのなりはじまり》

…… nu 《の》の省略

waN ?ikuN《私が行く》…… ga 《が》の省略

so:keiwo:zidai ci:《尚敬王時代へきて》

…… Ngati《へ》の省略

nuru naimisoci《ノロになりなさって》

…… ni 《に》の省略

また, 係助詞 ja《は》もしばしば省略される。

?ukamiNcju subiti Kima:ti《御神人はすべて決って》

△係助詞の ga 《か》 ru 《ぞ》はその係る活用形式を特異な形で結ぶ。

?ici:-ga ku:ra 《いつ来るのかしら》

?ami:-ga huiira 《雨降るのかしら》

ti:-ru ?uqturu 《手ぞ打つ》

haki:ru su:ru 《書きぞする》

△格助詞「を」に相当する形式は存しない。

cju: so:tikuN 《人をつれてくる》

ma miN 《馬を見る》

4) 代 名 詞

△人称代名詞

単 数

複 数

1. 人 称 wa:《私》 waqta:《私たち》

waN 《私》

?a 《私たち》

?agaN 《私たち》

2. 人 称 ?ja: 《君, おまえ》 ?iqta: 《君たち, おまえた
ち》

na: 《あなた》 naqta: 《あなたたち》

naN 《あなた》 naNta: 《あなたたち》

?uNzju 《あなた》 ?uNzjuna: 《あなたたち》

?uNzjuna:ta: 《あなたたち》

3. 人 称

近 称 huri 《これ》 huqta: 《これたち》

huN 《これ》 huNta: 《これたち》

中 称 ?uri 《それ》 ?uqta: 《それたち》

?uN 《それ》 ?uNta: 《それたち》

遠 称 ?ari 《あれ》 ?aqta: 《あれたち》

?aN 《あれ》 ?aNta: 《あれたち》

不定称 ta: 《たれ》 taqta: 《たれたち》

taN 《たれ》 taNta: 《たれたち》

taru 《たれ》

△指示代名詞

指示代名詞（事物・場所・方向をされ示すもの）は次のようになっている。

近 称 huri 《これ》 huma 《ここ, こちら》

中 称 ?uri 《それ》 ?uma 《そこ, そちら》

遠 称 ?ari 《あれ》 ?ama 《あそこ, あちら》

不定称 diru 《どれ》 da: 《どこ, どちら》

4. 地点選定の理由

国立国語研究所話しことば研究室の要求による。

I 上間幸次郎氏の自然会話

録音日時 1969年8日1日

録音場所 はなし手の自宅

はなし手

氏 名 上 間 幸 次 郎

年 令 87才

職 歴 瀬底区長、本部町町会議員、瀬底産業農業協同組合理
事を経て、現在隠居生活

居 住 歴 現地で生まれ、ずっと現在まで居住。

きき手 内 間 直 仁

1. 瀬底のノロと門中について

解説：瀬底島の歴代ノロについて、その逸話を含めつつ述べ、さらに門中についてふれている。

(1)

?aNsa: dai-?icidai-nu nuru-hara-nu hwanasi:-sa:-ja:-
 それでは、 第1代の ノロからの 話をしましょうね。

sai sisuku-nu nuru-ja muka:si tacihwazimai-hara
 瀬底の ノロは 昔 [瀬底の] 立ちはじめから

nuru ?ata:nu munu:-jara:nu dai-zju:saN-dai-nu so:kei-
 ノロが あった ものではなく、 第13代の 尙敬

wo:-zidai ci ku:gi-nu meirei-sai nuru nateN-gutu
 王時代に きて 公儀の 命令で ノロに なったよう

?aiN-jo: kugi: je: suNne:-ja ku:gi-ja so:kei-
 であるよ、 公儀[のね]。 エー するとね、 公儀は、 尙敬

wo:-ja gusicjaN-?e:kata-nu sju?siN-nu-basu-je:tu
 王は 具志頭親方の 出身の頃だから、

(2)

sisuku-?e:ki:-nu nide:me-nu hwa:huzi-nu-basu wuti
 瀬底エーキーの 2代目の 先祖の頃 にて

?ukamiNcju subiti kimate:nu-gutu ?aiN nuru-ja
 御神人は すべて きまったよう である。 ノロは

(3)

sima:-nu nuro: ku:ginuru-rici ?usu-nu meirei-sai nuru
 島の ノロは 公儀ノロと言って、 御主の 命令で ノロに

(4)

nai-misoci sisuku-?e:ki:-nu nide:me-nu hwa:huzi-nu
 なりなざって、 瀬底エーキーの 2代目の 先祖の

(5)

cjo:re:-ga-je:misje:-tara ma:-ja wakaraN-siga ma:
 姉妹でいらしたのか、 ここは わからないが、 ここ、

nuru nai hwazimai-ja sisuku-?e:ki:-nu kwa:ma:ga
 ノロ[の]なり はじまりは 瀬底エーキーの 子孫、

(6)

jinaguNgwa-hara nati ?uNcju:-ga ?ikocu-ja nama
 女の子から なって、 その人の 遺骨は 今

(7)
mja:tuja?ugwaN-ne: ?aiN-jo: ?unu cjugi-ja mata
ミヤトウヤウガンに あるよ。 その 次は また

(nide:me:-nu...?anu a:) nide:me-nu nuru-ja mata
2代目の ... あの アー) 2代目の ノロは また

(8)
?agari-nu jinaguNgwa-nu nati ci: ?uNcju: (-ja)-ga
アガリの 女の子が なって きて, その人 (は) の

(9)
?ikocu-ja mata nama me:baru-nu nurubaka-ne: ?aiN-ba:
遺骨は また 今 メーバルの ノロ墓に あるわけ。

(10)
?iriNja:-nu cju:-ni
イリンヤーの 人に [孝されている]。

(11)
saNde:me:-nu (hwa:huzi-ja:) nuru-ja ?agataNme:-nu
3代目の (先祖は) ノロは アガタンメーの

(12)
kwa:-je:misjete:-siga ?ure: ?ai ?agari-nu
子でいらしたが, それは アー あがりの

zinaNsaNnaN-nu kwa:-jata-siga nati-siga
次男三男の 子であったが, [その人が3代目のノロに] なっているが,

(13)
?uNcju:(-ja)-nu ?ikocu-ja nama to:naNbjja-ne: ?izi
その人 (は) の 遺骨は 今 トーナンビヤに 行って

?aira-hazi ?uN nuru nati hicja:tu tuzi su:nu
あるはず。 その, ノロに なって しまったら 妻に する

cju:-ja wura:nu si:ku-ne: ?aNsa:ini ?agari-nu
人は 居らず, 瀬底に。 そこで アガリの

(14)
hwa:huzi-nu ?urasaki-nu nakazjuni-ri ?ju:nu cju:
先祖が 浦崎の 仲宗根と 言う 人を

(15)
so:ti ci: wutu simiti hicicja:tu ?uNcju:-tu
つれて きて 夫に させて, そうしたら その人と

(16)
nakazjuni:-ri-ru:tu ?unu nuru-tu-nu naka-ne:
仲宗根というのと その ノロとの 仲に

jinaguNgwa cju: ma:riti hicicja:tu ?uri:-ja ?unu
女の子 1人 生れて, そしたら, それは, その

jinaguNgwa-nu mata ?uja:-nu kawai nuru nateN-jo:
女の子が また 親の 代りに ノロに なっているよ。

?uri-ga a: saNde: a jude:me-nu nuru ?ucima-nu
それが アー 3代 ア 4代目の ノロ。〔すなわち〕内間の

buqpa: ?unu ?ucima-nu buqpa:-je:-siga ?uNcju:(-ga)-ja
おばあさん。 その 内間の おばあさんであるが、 その人(が)は

a: do:ko:-zju: ?ici-neN-nu kanutu-nu-?u:-nu tusi-ne:
アー 道光11年の かのとのうの 年に

ma:riti taisjo: taisjo:-saN-neN-gaja: saN-neN-nu
生れて 大正, 大正3年かしら, 3年の

turarusi-nu saNgwaci-zju:sigunici ci: ma:ci
寅年の 3月14・5日に きて おなくなりになって

hicihicja:-siga cjo:ru hwacizju:si:-nu tusi-ne:
しまったが、 丁度 84の 年齢に

ma:si-misociN-ba: ?uNcju:-ga ma:ci hicihicja:tu
おなくなりになったわけ。 その人が おなくなりになって そしたら

(17)
mata ?agari-nu hicide:me-nu hwa:huzi-nu cjo:zjo:
また アガリの 7代目の 先祖の 長女,

(18)
me:hinaziNja:-nu buqpa:-ga nai-misoci ?uNcju:-ga-basu
メーヒナジンヤーの おばあさんが なりなきて、 その人の頃

(19)
ne:-ja ?uhuzjuku-tu ?arasi:-nu ?izitiN-jo: nuru-nu
には ウフジユクと 争いが 出ているよ, ノロの。

(20)
?uhuzjuku-nu tacihwazimai-ja ?atu ?ure: simabuku
ウフジユクの 立ちはじめは、 だから、 それは 島袋

geN?iciro:-san-ga ?ukurisa:ini ?arasi: ?iziti
源一郎さんが 起して 争いが 出て、

?uhuzjuku-nu kwa:ma:ga-hara rukure: ?unu N: ?ucima-
ウフジユクの 子孫から 6代、 その ンー 内間

nu nurubuqpa:-ga ?atu-ja rukude:me-ja ?izitaN-ba:
の ノロおばあさんの 後は 6代目は 出たわけ。

(21)
[6代目は] mi:gwa:ja:-nu sjeNtarō:-ga tuzi ?uhuzjuku-nu
ミ-グワ-ヤーの 仙太郎の 妻, ウフジユクの

zjeNtarō:-ri ?i:-misje:nu cju:-nu sizjajinaguNgwa-nu
善太郎と 言いなざる 人の 長女が

?izi:ti gurukuniN hicihicija:tu ?aN-ga ?izi:nu muno:
出て, 5・6年 してから, あれが 出る もの

(22)
?araN-rici ?are: kutuwatihici hicihicija:tu na:
ではないといって, あれは ことわって, そしたら もう

nama-nu nuru?uma-ja hicide:me-nu nuru-ja mata
今の ノロは, 7代目の ノロは また

?agari-nu kaguro:-saN-ga cjo:zjo-nu ?izitaN-ba: nama
アガリの 嘉五郎さんの 長女が 出たわけ。 今

geNzjai ?ari-ga nuru nati ci:-siga juNdaimi-nu
現在 あれが ノロになって きているが, 4代目の

(23)
nuru-ja (?ucima ?anu) nuruNcija:siki-ne: ja: huci
ノロは 内間 あの ヌルンチ屋敷に 家を 建てて

meNsje:te:-siga ?unu ja:-ja (tat..) hukitategoja
いらしたが, その 家は 葺建て小屋,

?anaja: cjukuti meNsje:te-siga hwacizju:si:-nu tusi:
葺建小屋を つくって いらしたが, 84の 年齢に

nati ci: hicihicija:tu ?unu ?anaja:-nu sira?ai-nu
なって きて, そして その 葺建て小屋が 白ありが

ka:ti na: te:hu: hukiba wu:turaN-gutu nati ci:
食って もう 台風が 吹けば 居れないように なって きて

hicja:tu hudu: saNnaN-jikiga jikigaNgwa so:ti ci:
しまったから そこで 三男の男, 男の子を つれて きて,

?okami-nu me:-ne: na: ?uituma simisori-
御神の 前に もう[ノロのつとめを] おいとま させて下さい

rici ?ubusi: ?usagiti ?aNsi ?unu-ja: ?uN basu-ne:
といって,おさかぎを ささげて, そこで その家を その 場で

(24)
?unu hi:-ne: muru koNcjeN-ba: koNci sizimiti ci:
その 日に 全部 こわしたわけ。 こわして かたずけて きて、

hicja:tu ?unu juru:-ja ?unu saNnaN-nu me:
そしたら その 夜は その 三男の ところ、

(25)
[その] ja:-zi ru:-nu matama:ga ?anu hoNke-nu matama:ga
家に行つて 自分の 曾孫、 あの 本家の 曾孫、

?a: me:naci juhui-misoci hicihicja:tu ?unu-mama
アー 前にして おやすみなさつて、 そうしたう そのまま

cja:ma:si ?okami-ne: ?ujubiqkwanu juru: ma:si-misoci
おなくなりになつた。 御神に お許しをえた 夜。 おなくなりなさつて

hici na:?aqcja:-ja saNgwaci-nu zju:guruku-nici-guru
そして その翌日は 3月の 15・6日頃

jaraN-gaja: hi:-ja: ?ubiraN-siga tasikani saNgwaci-
でなかつたかしら、 日は 覚えていないが たしかに 3月

tura-rusi ja-siga ?a: taiso:-saNneN-gaja tura-rusi-ja
寅年 であるが、 アー、 大正3年かしら 寅年は、

ma:si-misoci ?aNsi hicihicje:-siga huNto: ?okami-N
おなくなりなさつて ああ なつてしまつたが、 本当 御神も

meNsje:sa-ja:-ri ?umuti siNzirarin-jo: na: niNgiN-nu
いらつしやるのだねと 思つて 信じられるよ。 もう、 人間が

?okami-nu me:-ne: na: nuru ?uituma simi-misori-rici
御神の 前に、 もう ノロを おいとま させて下さいといつて

ci: ja: sizimiti ci: hicja:tu ?unu-mama ma:cjaN-ri
きて、 家を かたずけて きて そしたら そのまま おなくなりになつたと

?i:-ne:ja nakanaka huNto: ?ukami-N meNsje:sa-ja:-rici
言うならば、 なかなか 本当 御神も いらつしやるのだねといつて

?umuti siNzirari:-siga ?aNtu sima:ja mukasi-hara
思つて 信じられるが。 だから 島は 昔から

siziraka:sanu hwanari jakutu hunu-gutu hici ?ukami-nu
霊力豊かで、 離れ だから このように して 御神の

(26)

?eNgani:-N ?ugamari-si ?uri-N hicja-siga
エンガニーも 拝まれるのは、 それも したが〔エンガニーも拝んだが〕,

?uri-N nama ?ugam-raN nati ?ure: nuru-nu-ru ?uqturu
それも 今は 拝まれなく なって、 それは ノロがぞ 打つのだ

-ricinu hwanasi:-N ?ati ci: hicja:-siga du:na:-N
という 話も あって きて いたが、 自分達も

?eNgani: ?ugamuN-ri ?agci hici
エンガニーを 拝むと 歩いて して〔自分達もエンガニーを拝もうと歩いて

(27)

pe:kiNja:-ne:ti ?eNgani: ?uga:ri si:-ne:ja
みたが〕, ベーキンヤーで エンガニーを 拝もうと すると,

(28)

?aNmari na: ?acira ?ugamaraN-ruN
あんまり もう あちら〔神様〕 拝まれないぞ

(29)

si:-ne:ja (?uhu ?unu) ?uhujumi sinu:gu-
するならば〔拝まれないときは〕 ウフユミ シヌ

(30)

nu-ba: ?ucigusi:ku-Ngati naNci: nubui-misje:taN-jo:
ーグの時, ウチグシークへ 一人で 登りなさったよ。

jama-N mi:-ci ?ama:-zi ?umuigaci si:-misjeN-ba: na:
山の 中へ。 あそこで 思い掛け しなさるわけ。 もう

?unu ?umuigaci-ja taciga si:misje:tara hici ?ari-ga
その 思い掛けは どう しなさったのか, そして あれが

meNso:ci me:-nu pe:kiNja-ci meNso:ci "to: jaga:ti
いらして, 前の ベーキンヤーに いらして, "どう やがて

?unu kane: ?ugamari:tu muru sizikani hicju:ri-
その 鐘は 拝まれるから 全部 静かに しておれ

jo:-ja:"-ri ?i:ba ?icju:ti si:misje:ta-siga ?aNci
よね"と 言えば, 言って おられたが, ああ

si:ba sugu ?ugamaritaN-jo: ?aNsutu ?uri-ja mata
すれば すぐ 拝まれたよ。 だから, それ〔鐘〕は また

nuru-nu-ru ?uqturu-rici:nu hwanasi: ?aita-siga hure:
ノロがぞ 打つのだという 話も あったが, これは

(32)

huNto: nuru-nu-ga ?uqtutara mata ?ukami-ga-ga ?uqti-
本当 ノロが 打ったのか, また 御神が 打ち

misje:tara na ma:-ja tasikamiraraN-ba: du:na:-nu ra:
なされたのか, もう ここは たしかめられないわけ, 自分達が. ね,

?ure: na: ru:na:-nu ?ugarariba-ru wakairu su:-siga
それは もう 自分たちが 拜んでおればぞ わかるのだが. ですが,

(33)

?unu ?atu-hara-ja na: zjeqtai ?ugamaraN haneja
その 後からは もう 絶対に 拜まれない. はれ!

(34)

?uNcju:-mari: ?aNcinu muno: ?ugamaqti ?uNcju:-ga
その人まで あんな ものは 拜まれて, その人が

ma:ci hicjatu-hara ?ugamanaN-siga haNcinu
おなくなりになって したから 拜まれないが. このような

rito:-ja subiti ?aNcinu ?a: sizaraka:sanu ?uri-jasiga
離島は すべて あのような アー 靈力豊かで. なんですが,

sima:-nu nuro: nama mari: cjo:ro hucidai nati
島の ノロは 今 まで 丁度 7代 なって

hici-siga ?ukamiNcju nuru kimatasi-ja zju:saNdai-nu
いるが 御神人, ノロの 決ったのは 13代の

so:keiwo:-zidai gusicjaN-?e:kata-nu zidai-ne:
尙敬王時代, 具志頭親方の 時代に

(35)

kimati:ra-ri ?umuin wane:
決っただろうと 思う 私は.

?unumaNguru-ja: (?ikuci) ?ikuci-nu muNcju:-nu si:ku-ne:
その頃は (いくつかの) 門中が 瀬底に

?ata:-ga-ri ?i:-ne:ja mutuma-nu muNcju:-nu ?aiN-jo:
あったかと 言うと, 6ヶ所の 門中が あるよ.

?uhuzjukumuNcju: ?uri-hara nakaramuNcju: nakahurumuNcju:
ウフジユク門中, それから 仲田門中, 仲程門中,

?uri-hara hicjaNhwatamuNcju: ?uri-hara ?agari-nu
それから ヒチャンフアタ門中, それから アガリの

muNcju: ?ukubarumuNcju: ?unu mutuma-nu a: muNcju:-nu
門中, 奥原門中, その 6ヶ所の アー 門中が

meNsje:te:N-gutu ?aiN subiti jinagugami-ja ?unu
いらしたようで ある。すべて 女の神は その

mutuma-nu kwa:ma:ga-hara nama wa:-ga munu ?umuti-
6ヶ所の 子孫から 今 私が もの 思っ

[物心ついて] hara (wa:-ga na:-ja) muru ciziN-ba: su:tu
(私もうね) 全部 続いているわけ。ですから,

?ukami-?arasui-N muka:si-hara ?ati hicje:-siga muru
御神争いも 昔から あって しているが, 全部

?uri hici ?a: jate:-siga ?unu nuru ?ukamiNcju-ja
なに して, アー, であったが, その ノロ 御神人は

subite ?unu kwa:ma:ga-hara muru ?izi:ti ci: hici
すべて その 子孫から 全部 出て きて して,

nuru-ja ?agari-N kwa:ma:ga nigami-ja ?uhuzjuku-nu
ノロは アガリの 子孫, 根神は ウフジユクの

kwa:ma:ga ?ucigami-ja a nakahurumuNcju: ?uri-hara
子孫, おきて神は ア 仲程門中, それから

?unu tacigami-rici ma:-niga ?uhujumi-sinugu-ne:
その タチ神とって, 馬など ウフユミシヌグに

nuisi-ja ?a: nakaramuNcju: ?ukubarumuNcju: ?agari-nu-
乗るのは アー 仲田門中, 奥原門中, アガリの

muNcju:-hara muru ?izi:ti ?aNci hicjakuN-gutu ?aiN-
門中から 全部 出て, あんなに しているようで ある

ri ?aNsutu hure: sima-ja mukasi-hara ?ukamiguni-rici
とき。ですから これは 島は 昔から 御神国とって,

mukasi-nu ?uta-ne:-N ?usire:kubusi-ne: ?aiN-jo:
昔の 歌にも 白太鼓節に あるよ。

"sisuku-tiru sima-ja daNsu tujumariru sirukuci-ja
"瀬底という 島は なるほど 富み栄えた島だ。 周囲は

?utaki naka-ja ?eguni" sirukuci-ja su:i-sai hacje:ra-
御嶽, 中は 豊かな国だ" シルクチは 周囲で 書いてあるだろう

ri ?umuin su:i-ja ?utaki sirukuci-rici ?aNcinu
と 思う。 周囲は 御嶽, シルクチとって。 あんな

(36)

kutu:-nu ?aitu ?aNtu ?ukamiguto: ?ugkari hici-ja
ことが あるから, だから, 御神ごとは 軽々しく しては

naraN-sa:-ri ?umutiN-ba: na: ?uqsa:
ならないなあと 思っているわけ。 もう それだけ。

2. 初代ノロについての逸話

解説：初代ノロについて伝説風に語られてきているものを述べている。

mja:tuja?ugwaN-ne: meNsje:ru nuru-ja ?uNcjo: (1)
 ミヤートウヤウガンに いらっしゃる〔葬っている〕 ノロは、 その人は

bjo:ki hici ma:si-miso:cjanu munu: ?ara:nu siwa:si
 病氣 して おなくなりなされた もの ではなく 師走

kju:-nu siwa:si-nu (kirama me:-nu-ba:) siwasi-nu
 旧歴の 師走の (慶良間の前の頃) 師走の

miq ka-nu hi: to:rumaibama-Ngati hara:zi ?arai-ga (2)
 3日の 日, トールマイ浜へ 髪 洗いに

meNso:ci hana:zi ?une:na:zi-ja ?umi-zi hara:zi
 いらして, 必ず その頃は 海で 髪を

?arai-misje:te:tu hicihicja:tu kagusimabuni-nu tanaha- (3)
 洗いなされたから, そしたら, 鹿児島船が 海きょう

ne: ha:tuti ?unu huni-nu kakuNc ja:-ga tiNma-hara (4)
 に 停泊していて, その 船の 船員たちが てんま船から

?uriti ci: ?uNcju: go:kaN saN-rihicjeN-jo: ka:gi-N
 おりて きて, その人を 強姦 しようとしているよ。 美しくも

?ateN-te: hicihicja:tu ?uNcju: sugu ?agizjabijo: hici
 あったはず。 そしたら, その人は すぐ 大変だよー して

?ui-gati nubuti-meNso:ci maneti " ?iqta: huni-ja-hja: (5)
 上へ 登りなされて, ここで "お前たちの 船はね,

(6)
 zjaNpa ?ika:ba warire:-hja:"-ri ?ici ti: ?usasi-
 残波 行かば われてしまえ"と 言って 手を 合わせ

miso:ci hicja:tu ?unu huni-ja teNki-nu no:ti ?izi
 なされて, そしたら その 船は 天気が なおって 行った

hicja:-tu zjaNpa-zi he:waritaN-ri ?ju:nu hwanasi:
 ところ, 残波で われてしまったと 言う 話を

kici hicihicja:tu ?uNta:-ga ki:-ne:ja na: mata
聞いて, そしたら, その者たちが きたならば, もう また

?uNta:-ne: kurusariN-ri ?ja:ni ?uNcjo: ma:zi hakuri-
その者たちに 殺されると 言って, その人は ここに 隠れ

misoci na: simazju:-N cju: ?izi:ti sagaci-N wura:nu
なさって, もう 島中の 人が 出て さがしても 居らず,

(7)

?ato: ?unu hu:i pi: siki:ti mo:ci hicja:tu ma:-ja
後は その あたり 火を つけて もやして, そしたら ここは

ma:ti ?unu jama: ?uqsa:-ja ma:ti hicihicja:tu ma:zi
やけ残って, その 山 それだけは やけ残って, そしたら ここへ

?izja:tu ma:ne: na: masimiso:ci meNso:ci cja:ma:
行ったら ここに もう おなくなりなさって いらして, そのまま

ma:-me: ko:muti hicjeN-ri ?ju:nu hwanasi:
ここに 葬って やったと 言う 話。

Ⅱ 上間真好氏の自然会話

録音日時 1969年8月22日

録音場所 瀬底公民館

はなし手

氏 名 上 間 真 好

生年月日 大正8年12月28日生

職 業 瀬底農協組合長，本郡町町会議員・同副議長

居 住 歴 0～24才在郷，25～26才兵役（福岡），
26～現在，在郷

きき手 内 間 直 仁

1. 島の概況

解説：瀬底島の成り立ちからはじめて、過去から現在へかけての島の生活状況，児童生徒の教育状況等について述べている。

(1)
 si:kuzima-nu kunibiraki-ja mukasi-nu tusiNcja-kara-nu
 瀬底島の 国開きは 昔の 年寄りたちからの

hwanasi: kici miruN-sa:bire: te:ge: joNhhjakuhacizju:-
 話 聞いて みますと、 大概 480

niN-baka: natiN hanasi:-je:biN ?aNsa:i hwazimi-ja
 年ばかり なっている 話です。 そこで、 はじめは

(2)
 nakiziN-kara nanakine:-nu ja:niNzju-nu si:ku-kai
 今婦仁から 7家族の 家族が 瀬底へ

meNso:ci sima-nu ?icibaN takasje:nu ?ucigusikujama-
 いらして、 島の 一番 高い ウテグシク山

runu ?anu hiN-ne: ja:siki mutumiti nanakine:-sa:i
 という あの あたりに 屋敷を 求めて 7家族で

(3)
 si:kuzima-ja hazimiti kunibiraki sicjeN-gutu
 瀬底は はじめて 国開き してあるようで

?aibiN ?aNsa:i joNhhjakuhacizju:-neN-kaN-ni ziNko:-N
 あります。 そこで、 480年間に 人口も

nisjeNsaNbjaku-niN kine:-N sanbjakuniziqko nama-ja
 2300人、 家族も 320戸、 今は

mutubucjo:-ne:tiN ?icibaN magisje:nu ?azja-Ngati
 本部町でも 一番 大きい 字へ

nato:biN je sima-nu ?aramasi ?uhwanasi:-sa:bire:
 なっています。 エー、 島の あらまし お話しますと、

sima-nu mawari-ja nirihwaN nagasa-nu ?iciri ?aNsa:i
 島の まわりは 2里半、 長さが 1里、 そこで、

(4)
 so:cibusu:-ja zjeNbu-sa:i muru-sa:i je:
 総坪数は 全部で、 全部で エー、

(5)
kju:zju:maNcibu-rinu-gutu nato:ibiN mukasi-nu kurasi-
90万坪というように なっております。 昔の 生活

(6)
tu nama-nu kurasi-nu sabi:ne: si:kuzima-ja
と 今の 生活の [比較を] しますと、 瀬底島は

huNto: wakimizi-N ne:raN tami-ne: me:niN-me:niN-nu
本当 湧き水も ない ために、 毎年毎年の

kura:si-ri ?ju:si-ja ?umu:-tu wugi: suko:ti
生活と 言うのは いもと 砂糖キビを 作って

kurasi-gata-ja (su: ?e:) so:bi:-siga ?e: pjai-ne:
生活等は (し、エー) しておりましたが、 エー、 ひでりに

(7)
?atai-ja si:-ne:tija mizi-nu ne:ranu hwamasakiga:
あたりは するならば、 水が なく、 浜崎川

(8)
hajo:ti na: mizi-N kuri sje:kacju su:nu ?atai-
通って もう 水も 汲んで 生活 する ぐらい

(9)
je:bi:taN ?aNsa:i waku ne:nu kunu mizi-ja cjanuhu:zi
でありました。 そこで、 湧き水の ない この 水は どのように

hici mizi tute:ta-gaja:-rici hanasi sabi:ne:tija
して 水を 取っていたかしらといって 話 しますならば、

sima:-nu ?icibaN ?ui-nu ha:jama:-Nri ?juN tukuma:-ne:
島の 一番 上の 池の山と 言う ところに

(10) (11)
ke:ga: huti saNkasjo-baka: ke:ga:
飲み水をためる池を 掘って、 3ヶ所ぐらい 飲み水をためる池を

(12)
huto:bi:-siga ?uri nagarimizi ?acimiti kunu mizi
掘っておりますが、 そこに 流れ水を 集めて、 この 水を

nuri na: sje:kacju-N so:bi:ta-siga mata kuma-ne:
飲んで もう 生活も しておりましたが、 また ここに

?iwari-nu ?aiibiN-sai ?unu ha:jama-ri ?ju:nu tukuma:-
いわれが ありますよ。 その 池の山と 言う ところ

ja kuma-ne:-ja kamisama macjuri ?agiti kunu
は ここには 神様 祭り あげて、 この

kamisama-nu meNsje:tu si:ku-nu muraNcju:-ja kunu mizi
神様が いらっしゃるから 瀬底の 村の人は この 水を

nuri-N nu:-N bjo:ki-N saN sje:kacju-ne: zjo:to:-ro:-
飲んでも なにも 病気も しない、 生活に 上等だ

(13)

rici so: ?ju: siNko:-nu kami ?agami:nu kukuru-sa:i
といて、そう 言う 信仰の 神 崇める 心で、

kunu mizi nuri sje:kacju-N hici je: so:bi:taN
この 水を 飲んで 生活も して エー、 しておりました。

(14)

je: si:kuzima-ja ?umi-nu hakumaqti ?umiNcju:-ga
エー、 瀬底島は 海に かこまれて、 海人が

(15)

?uho:sje:hara-ru ?umui-jabi:ra-hwazi-je:bi:-siga ?aN-
多いのかと 思うでしょうはずですが、 そう

(16)

je:biraN haru-ja na: joNzju:maNci bu-N hwaru: ?ai-
ではなく、 畑は もう 40万坪も 畑 あり

sabi:kutu mukasi-kara ?umiNcju:-rici-ja meNsor:ranu
ますから、 昔から 海人といっは いらっしゃるないで、

murū hjakuso:-ru (so:biti: je:) so:bi:ru ?aNsa:i
全部 百姓ぞ (してあります エー) してあります。 そこで、

sukoimuN-ja na: mukasi-ja na: ?umu: na: nakaguru-
作物は もう 昔は もう いも、 もう 中頃

kara ci: wugi:-N suko:ti sa:ta: sukote:bi:-siga
から きて 砂糖キビも 作って、 砂糖を 作っておりますが、

?umu:jataNte:kaNja na: mukasi-nu ?umu: ?uisi-ja so:ru
いもであっても もう 昔の いも 植えるのは 丁度、

su:maNbo:su:-nu siNgwaci-ne: ?umu: ?uiriba na:
小満芒種の 4月に いも 植えると、 もう

?iqkaneN-kaN ?umu: ?uiranu ?aN hici me:niN me:niN
1ヶ年間 いも 植えず、 ああ して 毎年 毎年

gasi hici na: ke:munu:-N ne:N mizi-N ne:Nne: na:
飢饉におそわれ、 もう、 食べ物も なく、 水も なければ、 もう

ke:munu:-N ne:N ?unu kurasikata-ja so:biN ?ure:-ja
食べ物も なく, その 生活は しております。 それは

mukasi-kara maNkui ?aN-jatara ?umui sabi:-siga
昔から どこも ああだったであろうと 思い ますが,

si:kuzima-ja na: ?unu: ?umu:-tu mizi ne:N juini
瀬底島は もう その いもと 水が ない ゆえに

kumi:-N cjukui sanu na: ?umu baka:-zi na: sjeikacju
米も つくり きれず, もう いも ばかりで もう 生活

hicjo:bi:-siga je: zjeNzjeN si:ku-ne:-ja sima-ne:-ja
しておりますが, エー, 全然 瀬底には, 島には

ta:-ja ne:-jabiraN-siga hamasaki ?unu (?aNci)
田は ないので, 浜崎, その (アンチ)

(17) (18)
?aNciro: wata:ti tibu:ni-sa:i wata:ti je: ta:
アンチ道を 渡って, 手舟で 渡って, エー, 田,

(19)
maNnata:buku-kure:-Ngati sima:-nu ?e:kiNcjuta: ta:
満名田んぼあたりへ 島の 資産家たちは 田を

muqci meNso:ci kumi: ?ikubuNka suko:ti je:
所有して いらして, 米を いくらか 作って, エー,

so:bi:te:-siga na: mukasi-nu kurasigata-ri ?i:
やっておりましたが, もう 昔の 生活と 言い

ne:tija ?umu:-ru ru:na:-nu hwaNme: niNzju-nu hwaNme:
ますと, いもぞ 自分達の 食物, 年中の 食べ物,

na: kumi-ja na: ?aNmasaru-ba: mata ?arija na
もう, 米は もう 気分の悪い時, また, あるいは もう

hicibi-nu-ba:-ri ?ju'nu-gutu-ru na: karute:nu-hu:zi-
祭りの時と 言うように もう, 食べていたようで (20)

je:biN nama-jatiN ta:-ja sa:biraN-siga jaqpasi
あります。 今でも 田は ませんが, やっぱり

hwaru-baka: nato:biN-sai
畑ばかり なっています。

je: siikuzima-ja na mukasi-kara waku-ja ne:raN na:
エー, 瀬底島は もう 昔から 湧き水は なく, もう

tiNsi:mizi tami:ti je: nuro:bi:ta-siga ?izja:nu ?N:
天水 ためて エー, 飲んでいたが, 去った ンー,

sjeNkju:hjakurokuzju:saNne-nu na: haNka-niN-ju: pja:ti
1963年の もう 半ケ年世も 乾上って

sabi:takutu cju:-nu kuni-ne: mizi-nu ne:NmuN-rici
しましたところ, 人の 国に 水が ないのにあって

?aina:-rici na: ?azjamiN-ja muru ri: tici-ja na:
あるかといって, もう 字民は 全部, よし! ひとつは もう

bo:riNgu-jatiN simi:ti sje:hu-nu katagata-N bo:riNgu-
ボーリングでも させて, 政府の 方々に ボーリング

re:N simi:ti mizi mutumiN saNne:tija naraN-
でも させて, 水を 求める[ように] しなければ いけない

(21)

sigarici hanasi:-nu na: murakwai-ne:tin ?ati
が, といって 話が もう 村会でも あって

sabi:takutu ?aNsa:i cjo:cjo:saN(-je:)-ne: ?unige:
しましたところ, そこで 町長さん(エー)に お願い

hici na: rokuzju:saNneN-nu hwacigwaci-guru bo:riNgu
して, もう 63年の 8月頃 ボーリング

(22)

sabitakutu na: ?umuigakinai na: mizi-nu ?izjabiti
しましたところ, もう, 思いがけなく もう 水が 出まして,

hukasa-ja te:ge: hjakunanaziqsjaku-ri ?junu tukuma:
深さは 大概 170尺と 言う ところ

huti hicjakutu mizi-nu ?iziti ci: nama-ja suiro:
掘って したところ, 水が 出て きて, 今は 水道も

ja:ja: ?iqci mizi-ne:N huziju: saN-gutu riqpana
家々に 入って, 水にも 不自由 しないように 立派な

sjeikacju hici muru na: gakumuN-nu cika:ra cju:nu
生活 して, 全部 もう 学問の 力, 人の

?N: kikai-nu haqta:cu si:ba ?aNciN kutu:-N naisa-
ンー 機械が 発達 すれば, あんな ことも なるんだ

ja:-rici ?azjamiN-ja na: cju:-N sima-ne:N makiraN-
ねとって, 字民は もう 人の 島にも 負けない

gutu ta:-gaN cju:ne: wararaN-gutu riqpana sje:kacju
ように, 誰がも 人に 笑われないように, 立派な 生活

(23)

naisa-ja:-rici muru na: jurukuruN sire:-je:biN
できるんだねとって, 全部 もう 喜んでいる 次第です。

?aNsa:i mukasi-ja ?unu si:kuzima-nu watasa:-ri
そこで, 昔は その 瀬底島の 渡し舟と

?ju:si-ja mutubu-nu hamasaki-tu na: si:ku-nu
言うのは 本部の 浜崎と もう 瀬底の

?aNcibama-tu-sje:i watasa: sa:biti na:
アンチ浜とで 渡し船を しまして〔航海して〕, もう

mukasi-nu huni-ri ?i:ne:tija taqtana:-rici na:
昔の 舟と 言いますと, タッタナーとって もう,

maci-sje: suko:te:ru huni-sje: cju: nuri:ba na:
松で 作ってある 舟で 人が 乗れば もう

zju:niN-na: ?atai-na: nuti ?aNsi ?e:ku-sa: huzi
10人ずつ ぐらいつつ 乗って, そして 櫂で 漕いで,

na: ?aNsi hicju:ti na: (a: cju:-N) sikuzima-nu
もう あんなに しておって もう (ア-,人も) 瀬底島の

(24)

cu:ta: wate:ti tokuni na: mizi ne:nu ?u: zirai-
人たちは 渡って, 特 に もう 水の ない ウー, 時代

ne:ga-jaibi:ne:tija hamasaki-kera mizi tuiN-ri ?unu
なんかでありますと, 浜崎から 水を 取るために, その

watasa:-ne: na: mizi-N na: haja:ci sje:kacju-N
渡し船に もう 水も もう 運んで, 生活も

kurasikata-N hicjo:bi:taN-siga na: ?uri-N tusi:ti
生活も しておりましたが, もう, それも 年が

?iku:tu siNre:-siNre: hwazimi-ja taqtana:-hara kikai
立つと 次第次第に はじめは タツタナーから 機械を

siki:nu huni-N riki:ti nama-ja na: mukasi-kara
つける 舟も できて、 今は もう 昔から

(25)
hikaku si:ne:tija saqta ?uri-N rukuzju:
比較 しますと、 去った それも 60、

rokuzju:saNneN-nu hicigwaci-ne: nama-nu watasa:-N
63年の 7月に 今の 渡船も

riki:ti na kuruma-N ciri hoNto:-N si:kusima-N nu:-N
できて、 もう 自動車も 積んで 本島も 瀬底島も なにも

(26)
kawaraN-gutu zido:sja-hara toraqku-kara nuNkui na:
変りのないように 自動車から トラックから なんでも もう

(27)
sima-Nkai wuti riqpana kono watasa:-N rikito:N
島へ 居て 立派な この 渡船も できている..

sire:-je:biNsai je: si:kusima-nu gaqko:-nu
次第です。 エー、 瀬底島の 学校が

rikihwazimatasi-ja na: kuNru-mari: te:ge: hacizju:niN
できはじめたのは もう 今度まで 大概 80年、

N: nato:bi:-siga gaqko:-nu hwazimai-ja si:kusima-nu
ンー、 なっておりますが、 学校の はじまりは 瀬底島の

(28) (29)
kunibiraki hicjanu me:-nu hucjamui-runu tukuma:-ne:
国開き した 前の フチャムイという ところに

(30) (31)
cjo:ru kajabukija:-sa:i si:tu-ja na: siguniN wute:-
丁度 茅葺屋で 生徒は もう 4.5人 居た

gisjeN-hu:zi-je:biN ?aNsi hazimiti-nu ko:cjo:sjeNsjeN-
らしいようです。 そこで はじめての 校長先生

ja je: si:kumaziri-nu ?aNto:zi-ja magiri-ri ?ici
は エー、 瀬底間切りの、 あの当時は 間切りと いて、

si:ku-ja nato:bisjeN-hu:zi-je:bi:te:-siga si:ku-run
瀬底は なっていたらしいようでしたが、 瀬底という

cju:-nu ?u: hwazi:mi ko:cjosjeNsjeN si:-misoriba
人が ウー, はじめ 校長先生 しなされば,

gaqko:-nu sjeNsjeN-nuN si:-misoci ?aNci hazimiti
学校の 先生も しなすって, あゐして, はじめて

si:ku-ne: gaqko:-N ?izi:ti na: ?izite:-gisjeN-hu:zi-
瀬底に 学校も 出て, もう, 出たらしいよう

je:bi:-siga ?aNsa:i ?unu to:zi-nu gaqko:-nu cje
ですが, そこで その 当時の 学校の, まあ, なんと,

?uNdo:zjo:-N ne:-jabiraNne:riba tara kajabukija:-sje:
運動場も ありませんで, ただ 茅葺き屋で

jusi:mi ?isibaja tati:ti mane:ti si:tu:ta: a:
四隅に 石柱 立てて ここで 生徒達 アー,

beNkjo: simite:nu-hu:zi-je:biN ?aNsa:i ?uri-hara na:
勉強 させていたようです。 そこで, それから もう

siNre:-siNre: jununaka:-N hirakiti ci: gaqko:-ja
次第次第に 世の中も 開けて きて, 学校は

mura:-nu si:kuzima-nu he:bata(-nu)-ne: gaqko: ?ucju:ci
村の 瀬底島の 南側(の)に 学校を 移して,

na: si:ku-nu ziNzjo:so:gaqko:-kara hwazimate:N-gisjeN-
もう 瀬底の 尋常小学校から はじまったらしい

hu:zi-je:bi:-siga ?aNsa:i gimukjo: ?iku-nu zirai-ne:ti-
ようですが, そこで, 義務教育の 時代で

je:bi:tiN ko:to:kwa-ja ne:nu tuguci-Ngati ko:to:kwa-
ありまして 高等科は なく, 渡久地へ 高等科

ja ?izi socugjo: hici sima-ne:-ja na:
は 行って, 卒業 して, 島には もう

ziNzjo:sjo:gaqko:-nu rokuneN-mari:-ru ?ate:-gisjeN-hu:zi
尋常小学校の 6年までぞ あったらしいよう

je:bi:-siga ?uNne:tiN na: hanarizima-je:kutu
ですが, その時にも もう 離れ島だから

si:tu:buni-rici watasa: suko:ti si:tu:-ne: na: huzi
生徒舟といて 渡し舟を 作って、 生徒に もう 溜いで

wata:ti su:-gutu hici na: ko:to:kwa-nu gaqko:-N
渡って するように して もう 高等科の 学校も

(32)

tuguci wuto:ti na socugjo: su:te:N-gisjeN-hu:zi-je:bi:-
渡久地に 居って もう 卒業 しておっらしいようです

sigā na: ?unu to:zi-ja na: ?ai ?ai-misje:nu
が、 もう その 当時は もう【お金の】ある、 ありなざる

?e:kiNcju-nu waraNcja:ta:-ru na: tugucigaqko:-N
資産家の 子供達ぞ もう 渡久地学校も

hajo:ti beNkjo:-N naibi:te:ru na: ku:saru:ta:-ja na:
通って 勉強も できましたんて、 もう、 貧乏者達は もう

so:gaqko:-jatiN joneNsje: socugjo: su:si-N wuibi:
小学校でも 四年生を 卒業 するのも 居り、

rukuneNsje: socugjo: su:si-N wuteN-gutu ?aibi-siga
6年生 卒業 するのも 居たようで ありますが、

kure: na ?ucina:zju: mæ:N ?ansinu kutu:-ru-jata:ra-
これは もう 沖繩中 どこも あんな ことぞだつたらう

ri ?umui-sabi:-siga ?unu sju:sjeN-nu N: tusi-ne: na
と 思います、 その 終戦の ン、 年に もう

gaqko:-N muru jakaqti sabitakutu na: ?unu sikici-ja
学校も 全部 焼かれて しまいましたから、もう その 敷地は

hu:sje:kutu ?uri ?iteN saNne: naraN-rici nama
小いから、 それを 移転 しないと いけないといて、 今

(33)

me:-nu si:kubaru-ne: ?aitanu gaqko:-ja nama(a:)-nu
前の 瀬底畑に あった 学校は 今、(ア-)、の

(34)

gaqko:-nu sikici-ja haNtabaru-rici sima-nu nisigawa-
学校の 敷地は ハンタ畑といて、 島の 北側

(35)

Ngati ?ucju:ci na sje:to-N joNhjaku-mei riqpana
へ 移して もう 生徒も 400名、 立派な

(36)

(37)

tatemono-N riki:ti na beNkjo:si:gata-N sicjo:nu u:
建物も できて, もう 勉強等も しておる ウー

(38)

sire:-je:bi:-siga je: naruhuru: gaqko:-N na: rito:-N
次第ですが, エー, なるほど 学校も もう 離島の

(39)

kaNkei-re ko:ko: ?aqkasu:si-jatiN cja: na: ma:
関係で 高校 出すのでも いつも もう ここを

(40)

kajo:ti-N ?aqkasari:biraN cja:tumaikumi simi:tuti-ru
通っても 通学させられませんし, そのまま泊りこんで させていてぞ

gaqko:-N ?izja:ci waraNcja:ta: kjo: ?ikugata-ne: na:
学校も 出して 子供達の 教育等に もう

(41)

neqsiN-ni muru hici meNsje:-siga a siNre:-siNre:
熱心に 全部 して いらっしゃるが, ア, 次第次第に

sju:sjeNgo-ja si:tu: roqppjaku-mei-baka: wuibi:ta-siga
終戦後は 生徒 600名ぐらい おりましたが,

nama-ja na: muru na he:kata-kure: kozja nahwa-gati
今は もう 全部 もう 南部あたり, コザ 那覇へ

muru hiqkoci si:tu:-N ?ikjaraku nati ci: na:
全部 引越して, 生徒も 少なく なって きて, もう

te:ge: joNhhjaku-me:-baka:-ru natiNra-ja:-ri ?umuto:biN
大概 400名ぐらいぞ なっているだろうねと 思っております。

je: hwanasi:-ja mata me:-Ngati muri-jabi:-siga na:
エー, 話は また 前へ 戻りますが, もう

si:kuzima-ja ?umu-tu sa:ta:zikoi-ru ?umu-je:bi:te:kutu
瀬底島は いもと 砂糖作りぞ 主でしたから,

hwazimi sa:ta:zikoi je: sa:bitasi-ja ?usiguruma-rici
はじめ 砂糖作り, エー, しましたのは 牛車といって

je: ki:guru:ma-jate-gisjeN-hu:zi-je:biN kuruma:-N
エー, 木製の車であつたらしいようです。 車も

hwazi:mi-ja na: ?anu: maci-niga: to:ci
はじめは もう あの- 松などを 倒して

?uN-sa:i kuru:ma siko:ti ?aNsa:i ?usi-ne: hika:ci
それで 車 作って そこで 牛に 引かして、

?unu wugi:-N siru subu:ti sa:ta: a: hici-sa:bite:-siga
その 砂糖キビの 汁を しぼって 砂糖を アー 作っていましたが、

(42)

?aNsa:i sa:ta:ja:-nu na: kaja-ru ?ja:bi:-siga
そこで、 砂糖屋の もう 借り方を いうのですが、

?uri-ja ?ucimagumi mata tana:gumi nakagumi
それは 内間組、 また、 タナー組、 中組、

?isiwra:gumi je: ?iqcjahwagumi-rici haNsi sa:ta:ja:-
イシワリ組、 エー、 イツチャフア組とって、 こんな 砂糖屋

nu kumi-N sikoto:ti na: ?anu wugi:-N sa:ta:-nu
の 組も 作っていて もう あの 砂糖キビも、 砂糖の

sje:zjo:-N hicje:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-siga ki:guruma-
製造も したらしいようですが、 木製の車

kara haniguruma nati ?usiguruma-kara ?umaguruma nati
から 鉄製の車に なって、 牛に引かす車から 馬に引かす車に なって

je: sju:sjeNgo-ja na: ?umaguruma-N na: ?uri-ja
エー、 終戦後は もう 馬に引かす車も もう それは

zirai-nu ?ukuri-re:tu-rici na: hacuro:ki-N ?iNti
時代の 遅れだからとって、 もう 発動機も 入れて

(43)

kikai je: kibi-nu ?aqsaaku:-N saNne: naraN-rici
機械、 エー、 砂糖キビの 圧搾も しないと いけないとって

sje:to:ko:zjo: tatiti hicjo:bi:ta-siga ?uri-N na:
製糖工場を たてて していましたが、 それも もう

rito:-nu kwaNkei-tu wugi:-nu ?ikjarasanu tami-ne:
離島の 関係と 砂糖キビが 少ない ために

hunu sa:ta:ja:-N na: ne:N nati nama-ja na: hoNto:-
この 砂糖屋も もう なく なって 今は もう 本島

Ngati hokubusje:to:-Ngati-ru wugi?uNpaN-N suN-gutu
へ、 北部製糖へぞ 砂糖キビ運搬も するように

nati mata no:ka-N ?uri-ga mata a: tami-rici
なって, また, 農家も それが また アー ためだ[利益がある]とって

murū jurukuro:N(-?N:) sire:-je:biN je:bi:-siga kunu:
全部 喜んでいる (ン-) 次第です。 ですが, この,

nu:N ?icjaN-te:kaN si:kuzima-ne:ti-ja na: ta:-N
なんと いったとしても, 瀬底島では もう 出も

(44) (45)
ne:N-ru ?aibi:tu koNgo-ja sa:ta:-nu ?N: sato:kibi-
ないので ありますから 今後は 砂糖の ン-, 砂糖キビ

tu je: tabakuzikoi ?uri-kara suikazikoi na: ?uNna
と エー, 煙草作り, それから 水瓜作り, もう そんな

muN siko:ti ?wa:-nuN ?usi-N sikanati ?ikusiru
ものを 作って 豚も 牛も 飼って いくぞ

koNgo-nu si:ku-nu no:gjo:-nu haqteN-ja ?ai-ja
今後の 瀬底の 農業の 発展は ありは

saN-gaja:-ri na: ?azjamiN je: ti:ci nati kunu ?N:
しないかしらと, もう 字民 エー, 一つに なって この ン-,

no:gjo:-nu haqteN-gata: na: kaNge:ti ?iku:nu
農業の 発展等を もう 考えて いく

kaNge:-je:biN
考えです。

2. 瀬底島の年中行事について、

解説：瀬底島で行なわれている年中行事について述べている。

si:kuzima-nu ?ugaNme:gutu-ja na kunihiraki ji: si-
瀬底島の 祈願事は もう 国開き イー, し

misó:cje:nu kine:-N nanakine:-nu-jatatu-ga-je:bi:tara
なすった 家族が 7 家族なのであったからなのだろうか、

na: nana?utaki-rici ni:ruku:ru-tu ?u: nururuNci na
もう 7 御嶽といて、 根所と ウー, ヌルルンチ, もう

(2) (3) (4)
sibataijama tiNti:ku ?aNci?ugwaN ?uri-hara
シバタイ山, テインテイク, アンチウグワン, それから

(5) (6)
?iri:-nu-?uta:ki me:-nu-?uta:ki-si nana?uta:ki-kara
西の御嶽, 前の御嶽で 7 御嶽から

nati niNZju:-nu na: ?ugaNme:gutu-ja so:ibi:-siga
なっていて、 年中の もう 祈願事は しておりますが、

ni:ruku:ma-ri ?ju:N rukuma:-ja si:ku-nu murabiraki
根所と 言う ところは 瀬底の 村開き

si:-misocje:nu ?uci-nu ?icibaN ?ui-nu ?N:
しなすった うちの 一番 上の ン、

kata-jate:-gisjeN-hu:zi-je:biN ja:-N na:-ja nama-N
方であつたらしいようです。 家の 名は 今も

?uhuzjuku-rici ?icjo:bi-siga ?uma-nu N: ni:dukuru-nu
ウフジユクといて、 いておりますが、 そのの ン、 根所の

(7) (8)
?ugwaN-nu ?uhu?ugwaN niN-ni taqke: watakusi?ugwaN-nu
御願が 大きな御願が 年に 2回、 個人の御願が

taqke: ?uri-kara na: ?ugwaN-nu ?aru-ha:zi
2回、 それから もう 御願が あるごとけ

ni:ruku:ma-ja ?ugwaN hwazimati-kara-ru nuNkui
根所は 御願が はじまってからぞ いろいろの

?ugwaNgutu naibi:-siga na: ?ugwaN-ne: ?uho:ku N:
祈願事は できるのですが、 もう 御願に 多く ン、

magi?ugwaN-ri ?ju:si-ja na: namasaki hwanasi
大きな御願と 言うのは もう 今先 話

hicja:nu ?uhu?ugwaN-nu niNzju: taqke: ?uri-ja naci-
した 大きな御願が 年中に 2回、 それは 夏

(9)

tu huju-tu ?aibi:-siga surikara watakusi?ugwaN
と 冬と ありますが、 それから 個人の御願、

(10)

?uri-hara sika:sani haNbuto:ki na ?uhujumisinugui
それから シカーサニ、 ハンブトーキ、 もう ウフユミシヌグイ、

?junu tukuma: ni:rukume(-ja)-zi a: niNzju:(-?a:)-nu
と言う ところを 根所 (は) で アー、 年中アー、の

(11)

gjo:zi-ja ?ukunaibi:-siga ?uri-kara na: nururuNci-suN
行事は 行ないますが、 それから もう ヌルルンチという

tukuma:-ja na: sima:-nu N: si:kuzima-nu ni:ruku:ma-
ところは もう 島の ン、 瀬底島の 根所

rici mukasi-kara na: ?uma:-ja je: ?uzigamisama-Nci
といって、 昔から もう そこは エー、 氏神様といっ

maciti na: neNzju:gjo:zi-N cja: ?uma-kara-ru
祭って もう 年中行事も いつも そこからぞ

hwazimati ?ugaNme:-N so:bi:ruu je: kunu ?ugaNme:-
はじまって 祈願も しております。エ、 この 祈願

su:nu-ba:-nu ti:ci-nu ?u: niNgwaN-ja tunikaku na:
する時の 一つの ウー、 願いは とにかく もう

?iqkaneN-na:-nu ju:ni:ge: jugahunige: mata a:
1ヶ年ごとの 世の願い、 世果報願い、 また、 アー

(12)

kuniNgwa-nu keNko:-nu ?unige: je: so:bi:-siga je:
国の子の 健康の お願い、 エー、 しておりますが、 エー、

kawaqta tukuma:-ja ?aNci?uta:ki-suN tukuma:-ja
変わった ところは アンチ御嶽という ところは、

?ama-ja sima:-nu ?aNcibama:-ri ?ju:si-ja mukasi-kara
あそこは 島の アンチ浜と 言うのは 昔から

watasa: watai tukuma:-ru-je:bi:tu kunu ke:so:-nu
渡し舟を 渡る ところそだから、 この 渡り道の

?aNzjeN kigaN-suN-tami-ne: ?unu ?aNci?ugaN-risi-ja
安全を 祈願するために その アンチ御願というのは

rikiti na: me:niN kuma ?uhu?ugwaN-nu-ba:-ne: je:
できて、 もう、 毎年 ここは 大きな御願の時に エー、

(13)

?ugwaNme: sa:bi:-siga je: na: kai:zjo:-nu ?aNzjeN
祈願 しますが、 エー、 もう 海上の 安全、

kuma-nu hamasaki si:ku ?uciwatai su:nu cju:-nu
ここの 浜崎と 瀬底を 渡ったり する 人の

ke:so:-nu ?aNzjeN-nu kamisama-tu-hici mukasi-kara a:
渡り道の 安全の 神様として 昔から アー

macjuraqto:i-gisjeN-hu:zi-je:biN
祭られているらしいようです。

?uri-hara ?iri-nu ?uta:ki-suN tukuma:-ja ?ama:-ja
それから 西の 御嶽という ところは、 あそこは

na: a: me:niN-nu ?ugaNme:-ja ?iqkaneN ?uhu?ugwaN-nu
もう アー、 毎年の 祈願事は 1ヶ年に 大きな御願が

taqke:-ru ?ai-sabi:-siga ?ama-ja mukasi-N cju-nu
2回ぞ ありますが、 あそこは 昔の 人の

(14)

hwanasi:-ruN kici miru-sabi:-ne:tija nuruganasi:-nu
話を 聞いて みますと ノロが

?ama-ne: ju: ?uwai-misocjaN-rici ?unu ju: ?uwai-
あそこに 世を 終りなされたといつて、 その 世を 終り

misocjaN tukuma:-ne: nama-jatiN macjuri ?iru?iru
なされた ところに 今でも 祭を いろいろ

na: a: (kununuru) ?unu nuru-ja na: re:zina
もう アー、 (このノロ) その ノロは もう 大変な

kamimasai-nu cju: nei-misoci ?ama-ne:ti mi: ?uwai-
神まさりの 人に なりなさって, そこで 身を 終り

misoci hicja:tu ?ama-ne: cja:ma: ho:muigata-hici
なさって, そしたら あそこに そのまま 葬儀して,

nama na: ?ugaNme:-N so:bi:-siga me:?utaki-ja ?ama-ja
今 もう 祈願も しておりますが, 前の御嶽は あそこは

ti:ci-nu ?u: ?aNsinu kamisama nu:-ru ?juN kamisama-
一つの ウー, あのような 神様 なんと いう 神様は

(si) macjuteN-rici-N kutu-je:biraN tara ?utaki-tu-hici
祭ってあるとっての ことではありまんて, ただ, 御嶽として

mane: na: kunimamuigami-tu-hici je: na: ?ama-ne:
ここに もう 国守り神として エー, もう あそこに

macjurigata je: hicjo:ibi:-siga kuma ?iqkaneN
祭り等 エー, しておりますが, ここは 1ケ年に

?uhu?ugwaN-nu taqke:-nu ?N: ?ugwaN-je:biN ?aNsa:i
大きな御願が 2回の ンー, 御願です。 そこで,

si:kusima-ja na: kunibiraki hici-kara
瀬底島は もう 国開き してから

joNhhjakuhacizju:neN-baka: nain mutubu-ne:tiN hurusjeN
480年ぐらいに なる。 本部でも 古い

(15)

?uci-ru je:····-biraN-siga ku:zinuru-rici mukasi je:
うちぞ で····であるが, 公儀ノ口とって 昔 エー,

ku:zinuru-ri ?i:-ne:tija na: ?ukamiNcju-ne: nuru-
公儀ノ口と いうと, もう 御神人で ノ口

ne:tiN na: ?icibaN ?ui-nu nuru-jate:-gisjeN-hu:zi-
でも もう 一番 上の ノ口だったらしいよう

je:bi:-siga ?iciqci:ziki: na: ku:zinuru-sa:i nama-
ですが, なにかにつけて もう 公儀ノ口で 今

jatiN ?unu na ku:zinuru nana?uta:ki-nu ?ugaNme:-ja
でも その もう 公儀ノ口が 7御嶽の 祈願は

mata ?unu ?usagito:biN. je: na:ti:ci hwanasi:
また あの 行なっております。 エー, もう一つ 話

(16)
sa:bi:si-ja ?unu ?ugaNme:gutu-ne: ne: ?uhusinihe-rici
しますのは その 祈願事に もう ウフシニヘーといって,

je: meNsje:-siga ?uma:-ja si:ku-Ngati taci-miso:cjanu
エー, いらっしゃるが, そこは 瀬底へ 立ちなきました

nanakine:-nu ?uci-nu ?icibaN ?uire:-nu hwa:huzi-nu
7 家族の うちの 一番 上位の 先祖の

(17)
?unu sisoN-kara me:niN-me:niN na: ju:cigi hici
その 子孫から 毎年毎年 もう 世継ぎ して

?uhusinihe: ?unu ?uhusinihe:-ru (N) ku:zinuru
ウフシニヘー〔となり〕, その ウフシニヘーと (ン) 公儀ノロ,

surikara ?ukamiNcju jinagu?uga:mi jikiga?uga:mi-rici
それから 御神人, 女の御神 男の御神といって

nuNkui meNsje:-siga (ku: ja N:) ?aNsa:i na: kunu
いろいろ いらっしゃるが, (く: ja N:) そこで もう, この

?uhusinihe:-ja na: ju:cigi nu:ru-ja nama-ja
ウフシニヘーは もう 世襲制で, ノロは 今は

si:ku?e:ki: ?aga:ri-ri ?icjo:bi:-siga ?ama-nu
瀬底エーキー〔すなわち〕 アガリーと いておりますが, あそこの

kwa:?umaga-nu mata ?iziN-gutu N: nato:biN
子孫が また 出るように ン-, っております。

je: huka-ne:-ja ruku ne:ranu macjurigutu je:-ja-
エー, 他には あまり ない 祭り事 では

sa:bi:-siga ?uri-ja hicigwaci-nu te:ge: zju:hacinici-
ありますが, それは 7月の 大概 18日

bake:-hara hwazimati te:ge: saNnicikaN ?ugaN-nu
ぐらいから はじまって, 大概 3日間 御願が

?aibi:-siga ?uri-ja ?uhujumisinugui-rici na: ?i:ba
ありますが, それは ウフユミシヌグイといって, もう 言わば,

mata ?anu haNbuto:ki-ri-sunu muN-je:bi:-siga kunu
また あの ハンブトーチという ものですが、 この

haNbuto:ki-risi-ja cjanuhu:zi su:ga-ri ?ia:bi:-ne:tija
ハンブトーチというのは どのように するかと 言いますと、

na jikigagami:-nu haciniN meNsje:-siga ?unu cju:ta:-
もう 男裃が 8人 いらっしゃるが、 その 人達

ga ja:-ja migui-misoci ?iso: siru ?iso: haki:ti
が 家家 めぐりなさって、 衣装、 白い 衣装 着て

(18)
kaNmuri-ja mata siru: siru kaNmuri kaNti ja:-ja:
冠は また 白い、 白い 冠 被って、 家家を

miguti na: ?uri kiqtu ti:ci-nu kito:-runu hwanasi:-
めぐって、 もう それは きっと 一つの 祈禱という 話

N kicjo:ibi:-siga na: ?akuhu:ge:barai ?akuhubarai-
も 聞いておりますが、 もう 悪風払い、 悪風払い

rici ?unu ?iqka-nu ?unu kine:-nu ?iqkaneNkaN-nu
といって、 その 一家の その 家族の 1ヶ年間の

N: na: jaku:harai-ri suN-cja:nu cimuje:-gisje:nu N:
ン、 もう 厄払いと するといった つもりらしい ン、

kutu-je:biN na: te:ku muqci kure:kugawa: muqci ja:
ことです。 もう、 太鼓を 持って、 小太鼓を 持って 家を

(19)
migu:ti " ho: ho: hwaNzjare:tu-nu ho: "-rici
めぐって、 ホー ホー ファンヂヤレトウヌ ホー といって、

?unuhu:zinu na: taqke:-baka: ?abi:ti na:
そのような [言葉を] もう 2回ぐらい 叫んで、 もう

?oharai-sa:bi:-siga kuri-ja huka-ne:N ruku ne:nu N:
お払いたしますが、 これは 他にも あんまり ない ン、

?ugwaNmuci-je:biN
御願持ちです。

je: te:ge: ?unu ?atai-ru na: sikuzima-nu ?u:
エー、 大概 その あたりぞ もう 瀬底の ウー、

?ukamigutu niNzju:-nu gjo:zigutu-N ?aibi:-siga mata
 御神事, 年中の 行事ごとも ありますが, また,

na:ti:ci-ja ?uhujumisinugui-N-ba: ?uri-N hicigwaci-
 もう一つは ウフユミシヌグイの時, それも 7月

zju:hacinici kju:-nu-re:biN-ro: hicigwaci-zju:hacinici-
 18日, 旧暦のですよ, 7月18日

je:biN-ne: jinagu?uka:mi-nu mata ?uNcju:ta:
 です[が, その時]に 女の神様が, また その人達も

?iso: haki-misici ?umanui-rici je: ma: nui-misoci
 衣装を 着なさって, 馬乗りといて, エー, 馬に 乗りなさって,

?aNsa:i jumi: muqci na: ?anu: hicinu
 そこで 手を 持って, もう あのー, [こんな]に] しての

?ugaNme: ?aibi:-siga na: mukasi-ja ?aNsiN kutu:
 祈願事が ありますが, もう 昔は あんな こと[馬に

sa:bi:te:-siga nama-ja na: ?uma-N nui tuka-
 乗ること]もしましたが, 今は もう 馬も 乗る とか

rici (nai je:) si:-misoraN tara na: ?ucimaNmo:-suN
 いて しなさらず, ただ, もう ウチマンモーという

tukuma:-ne:ti ?acimati na: ?anu ju:nige: murazju:-N
 ところで 集って, もう, あの, 世果報願い, 村中の

cju:-nu kara:ta nige: je: hici so:i:bi-siga na:
 人の 健康 願い, エー, して, しておりますが, もう

mukasi-ja na: nu: si:baN ?ukamigutu nama-jatiN na:
 昔は もう なに しても 御神事, 今でも もう

?ukamigutu mata muru ju: siNko: hicju:ti je niNniN
 御神事, また, 全部 よく 信仰 していて, エー, 年々

kuma:ru-nu ?ugaNme:gutu-N na riqpa N: si?agiti
 小まわりの 祈願事も もう 立派に ンー, しあげて,

?azjamiN-jatiN hicjo:N-gutu hicjo:bi:-siga na: kuriN
 字民でも しておるよう, しておりますが, もう これも,

mukasi-ja mata ?unu ?ugaNmuci-rici N: cinahiki-N
昔は また その 御願持ちといて、ンー、 綱引きも

?ariba na: wu:ru i murawu:ru i-nuN ?ai bi:-siga ?unu
あれば、 もう 踊り、 村踊りも ありますが、 その

murawu:ru i-ja je: mukasiNcju-nu hwanasi: sa:bi:-
村踊りは、 エー、 昔の人の 話 します[ところ

ne:tija me:niN su:te:-gisjeN-hu:zi-je:biN
に よります] と、 毎年 したらしいようです、

(je:...) so:bi:teN-hu:zi-je:bi:-siga ?uri me:niN
しておっらしいようですが、 それを 毎年

(21)
hici-ja naraN-rici si:kuzima na: to:kaci si:-misjeN
しては いけないといて、 瀬底に もう 米寿 しなざる

cju:-nu N: meNsjeN-ba:-ja na: murawu:ru i je: hici
人が ンー、 いらっしやる時は もう 村踊り、 エー、 して、

mata to:kaci su:N cju: meNso:raN-ba:-ja na:
また 米寿を する 人が いらっしやらない時は もう

cinahiki:-rici te:ge: ?unu-hu:zi: hici kimi:ti na:
綱引きといて、 大概 そのように して 決めて もう

mura?ugwaN mura?asiri-N so:te:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-siga
村御願、 村遊びも しておっらしいようですが、

?unu wu:ru i-ma:ru ?ataiN-ba:-nu wu:ru i suN tukuma:-
その 踊り番 当る時の 踊り する ところ

ja namasaki hwanasi: sa:bi:ta:nu niruku:ma-nu
は 今先 話 しました 根所の

?uhuzjuku-suN tukuma:-nu ma: ?ui-ne: ?asi:bimo:-nu
ウフジユクという ところの、 その 上に 遊び広場が

?ai bi:-siga ?ama wuto:ti kju:-nu hacigwaci-nu kunici-
ありますが、 あそこ において、 旧暦の 8月の 9日

kara a: hacigwaci-nu zju: ?i cinici hacigwaci-nu
から アー、 8月の 11日、 8月の

zju:saNnic hacigwaci zju:juqka ?uqsa:-ja na:
13日, 8月 14日, それだけは もう

?ugwaNmuci na: mura?asibi-ri ?ju:si-jo:kaN na:
御願持ち, もう 村遊びと いうより, もう

kamisama-ne: taisuru na ?ugwaNmuci ju:nige:-nu
神様に 対する もう 御願持ち, 世界報願いの

?asi:bi na: wu:ru i hici
遊び, もう 踊り して〔それらの祈願をとり行なっているというような〕

hwanasi: saqto:ibiN-sai na: si:kuzima-ja mukasi-kara
話が されております。 もう 瀬底島は 昔から

?aNsinu ?asi:bi-nu ?aibi:te:kutu na: kumiwu:ru i-nu
あのような 遊びが ありましたから もう 組踊りが

cjaqsa:N ?aibi:-siga je: ?u:kawatiki?uci-tuka ?aru ija
多く ありますが, エー, 大川敵打ちとか, あるいは (22)

mata ?ano: husijama-tuka ?aru ija timi:zinujiN-tuka-
また あのー, フシヤマとか あるいは 手水の縁とか

ricinu mukasi-hara-nu ?i:citaware:qtinu tukuma:-N
いった 昔からの 言い伝えられてきている ところも

kumiwu:ru i ?urikara tiwu:ru i nuNkui na:
組踊り 〔として踊り〕, それから 手踊り, いろいろ もう

huka-ne: ne:nu tukuma-nu N: wu:ruimuN rikito:NbiN
他に ない ところの ン-, 踊りものが できております。

je cinaciki-ja (23) kuri-ja na: sjeNgo nikai-baka:-ja:
エー, 綱引きは これは もう 戦後 2回ぐらいは

a: cinahiki sabita-siga cinahiki-ja si:kuzima-nu ?u:
アー, 綱引き しましたが, 綱引きは 瀬底島の ウー,

me:ho- tu husiho:-tu waki:ti hwacigwaci-nu
前方〔南側〕と 後方〔北側〕と 分けて 8月の

zju: ?icinici-ne: je: sima:-nu nahamici-su:N tukuma:
11日に エー, 島の 中道という ところ

wuto:ti na: ?anu: cinahiki-rici ?uri piqci: ?ugwaNmuci-
において、 もう あのうー、 綱引きといって、 それは 1日御願持ち

rici na: me:ho: husiho: hitimiti-kara
といって もう 前方も 後方も 朝から

mici:zine: ?urikara si:ke ?urikara
踊り手が着飾って道をねり歩く儀式や、 それから 押し合い競争 それから

(24)
zjurugwa: ?agi je: ?unu-hu:zi hici na: saigo-ne:-ja
肩車競争 そのように して もう 最後には

cina: hici je: mata ?ucimaNmo:-su:N tukuma:-ne:ti
綱を 引いて エー、 また ウチマンモーという ところで

sima: tuti ju: ?akiru:si: na: kunu piqci:-ja
相撲を とって 夜の 明け通し もう この 1日は

?ugwaNmuci-nu cinahiki-N na: kamisama-Nkai na: ?anu
御願持ちの 綱引きも 神様へ もう あの

?usagiN-ri ?ju:nu gjo:zi ?uri na: si:kuzima-nu
さしあげると いう 行事、 それは もう 瀬底島の

mukasi-kara citawati:nu N: gjo:zi-nu ma:ginu ?uci-
昔から 伝っている ンー、 行事の 大きい うち

Ngati na: wu:rui-tu murawu:rui?asibi cinahiki-ja
へ〔はいり〕、もう 踊りと 村踊り遊び、 綱引きは

nema-mari:-N citawati N: geNzjai-ni nama nato:biN
今までも 伝って ンー、 現在に 今 なっております。

3. 下男奉公について

解説：明治末期頃に行なわれた下男奉公について述べている。

je: zinaNbu:ku:-rusi-ja te:ge: kuri ji meizi-nu
 エー, 下男奉公というのは 大概 これは 一, 明治の

nakaba-guru-kara hwazimati taisjo:-zju:nisaNniN-guru-
 半頃から はじまって, 大正12・3年頃

(1)
 mari: ?unu-hu:zi:nu ?unu ziniNbu:ku:-rusi ?ate:-
 まで そのような その 下男奉公というのは あった

gisjeN-hu:zi-je:bi-siga mukasi-kara-nu hwanasi:-ne:
 らしいようですが, 昔からの 話

kwa:nasibiNso:-rici kwa: ?uho:ku nasi-ne:tija piNso:
 子産し貧乏とって, 子を 多く 産むと 貧乏

suN-rici mata na:ti:ci-nu muka:sikutuba-ne: "masuciga
 するといって, また, もう一つの 昔言葉に "升目を

hika-jo:kaN-ja kucibata hiki"-ricinu hwanasi: ?aiN
 引くよりは 口数を 引け"といつての 話 ある

tu:i huNto: na: mukasi-ja na: je: gasirusi-ja
 通り, 本当 もう 昔は もう エー, 飢饉の年は

?atai-ne:tija na: kwa naciN cju:ta:-ja na:
 あたると, もう 子を[多く]産んでいる 人達は もう

(2)

kakarumuN kakarara:nu
 かかるべきものも かかることができないで[病気になっても医者に見てもらえないこと]

?e:kiNcju:-Ngati ru:-nu N: ru:-nu kwa: hanasa ru:-N
 資産家へ 自分の ン-, 自分の 子, 愛しい 自分の

kwa:-N ziniNbu:ku: ?u: simi:ti ?aNsi na: ?a:
 子も 下男奉行, ウー, させて, ああして もう アー,

kurasigata naNne: naraNmN(?N)-ba:-je:bi:te:-siga
 生活等を しなれば いけない (ン-) 時でしたが,

?uNto:zi-nu na hjaqkwaN-na: rusiru-ne:tija magisaru
その当時の もう 百貫ずつの 身代金というと 大きい

jikiga-nu-ru hjaqkwaN-na:-sjei na ?e:kiNcju-nu
男がぞ 百貫ずつで もう 資産家の

tukuma:-ne:ti na ziniNbu:ku: ziniNbu:ku:-ja dusiru-
ところで もう 下男奉行, 下男奉行は 身代金

rici rusiru hatamiti ?uN ja:-ne:ti sikaraqti kunu
といって 身代金を 負って その 家で 使われて, この

?N: kate:nu ziN ?N: kirasuN-gutu-jate:-gisjeN-hu:zi
-, 借りた お金を -, きらすようであつたらしいよう

je:bi:-siga ?uri-ja kate:nu ziN mutusiN-ja kiriranu
ですが, それは 借りている お金, 元金は きれず,

ri:-bake: kiriti ?ikute:N-hu:zi-je:biN ?ansa:i na:
利子ばかり きて いきよつたようです。 そこで もう

hwataraci mo:kiti ja:-hara ?unu rusiru ?iNraN-
働いて 儲けて〔自分の〕 家から その 身代金 入れない

ne:tija na: ?icitutu:mi ?unu kine:-ne: na: sika:ra:
と, もう いきている間 その 家庭に もう 使わなければ

naraN-gutunu ?usumasi: jununaka-N ?ate:-gisjeN-hu:zi-
いけないような 大変な 世の中も あつたらしいよう

je:bi:-siga ?uri: ?uN zirai-nu hwanasi: si:-ne:tija
ですが, それを その 時代の 話を すると

nama-nu wakasje:sita:-ga cja:siN so: sa:mu
今の 若い者達が どうしても 信じ ないで,

na:muNjumi-re:ru-rici hanasi: je: si:-ja sa:bi:-siga
うそつきだといって 話を エー, しは しますが,

na: zide:-ja ?aNcinu zire:-re:bi:te:tu na: ru:-nu
もう 時代は あんな 時代でしたから もう 自分の

kwa:-N ?uti na: zjuri?ui-rici mukasiNcju-nu na:
子も 売って もう, 女郎売りとって 昔の人の もう

(3) ?iqsjo:gai-nu ?ui-ri cja:N kutu-je:biteN-sai ?uri-ja
 一生涯の 売りと いった ことですよ。 それは

na: ziniNkwa:-N ?uN-hu:zi-jate:-gisje*biN na:
 もう 下男子も そのようであつたらしいようです。 もう

mutusiN-ja kiriranu ri:-bake: kiri:ti ?izi mutusiN
 元金は きれないで 利子ばかり きれて 行って、 元金

?iNri jo:ka:-ja na: naNzju:niN natiN na: ?uN
 入れる までは もう 何十年に なつても もう その

ja:-ne: sikara: naraN-ri cja:nu-hu:zinu ?anu ne
 家に 使わなければ いけないと いったような、 あの もう

?ucina: muru (?anu) ?aN sabi:tera waqta: sima-ne:
 沖縄 全部 (あの) ああ しましたのか、 私達の 島に、

si:kuzima-ne:-bake: ?aNsiN sjeiro-N ?ai-ga-sabi:tera
 瀬底島にばかり あのような 制度も ありましたのか

wakajabiraN-siga ?aNsinu ?N: zire:-nu ?ate:-gisjeN-
 わかりませんが、 あのような ン、 時代が あつたらしい

hu:zi-je:biN ?aNtu muka:sikutuba-ne: ?ja:bi:si-ja
 ようです。 ですから 昔言葉に いますのは、

nama-ja na: ziniNbu:ku:-tuka nu:ga ?anu: rasi:ru-tuka
 今は もう 下男奉公とか どうして あの、 身代金とか

?ja:bi:-siga sika:ma-rici ?uN kutu:ba-ja na: cjaqciN
 いますが、 シカーマとって その 言葉は もう いかなる

kutu-ga-ja wakajabiraN-siga sika:ma-rici na: du:-nu
 ことかは わかりませんが、 シカーマとって もう 自分の

kwa:-N wuraN na: rusiru hatamirasuN kwa:-N wuraN-
 子も いない、 もう 身代金を 負わせる 子も いない

ne:tija ru: huNniN-sa:i na siki:-ni naNnici-na:
 と、 自分 本人で もう 月に なん日ずつ

naNnici-na:-ja ma: sigu:tu ?izi mubui muke:
 なんにちずつは ここへ 仕事 行き 戻り 迎え

hici su:te:nu se:ro:-N ?ate:-gisjeN-hu:zi
して〔行ったり来たりして〕 していた 制度も あつたらしいよう

je:bi:-siga ?uri-ga sika:ma-ru:si-tu mata mutusiN
ですが、 それが シカーマというのと、 また、 元金

(4)
karamisi-ja katamiti ?unu-ja: cikari:si-ja na rusi:ru-
負うのは、 負って その家で 使われるのは もう 身代金

(5)
rici hunu-hu:zi:nu kono: ziN-nu mici-nu jari tui-N
いって、 そのような この一 お金の 道の やり 取りも

?ate:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-siga ?uri-ga ne:N natasi-ja
あつたらしいようですが、 それが なく なつたのは、

hanasi: kici-ruN sa:bi-ne:ti cjo:ru ?N: (hwana)
話を 聞いてみぞ しますと、 丁度 ン、

taisjo:-zibai-mari: ?ancinu kutu ?ataN-ri ?i:-ne:te
大正時代まで あのような ことが あつたと 言うと

so: sa:biraNra-hwazi-je:bi:-siga je: taisjo:-hacineN-
信じ ませんでしようはずですが、 エー、 大正8年

nu buqkato:ki je rai-nizi je rai-?icizi-sjeNso:
の 物価騰貴、 エ、 第二次 エ、 第一次戦争、

sekai-taisjeNso:-nu ?atu-nu buqkato:ki-ne:ti ?a sima-
世界大戦争の 後の 物価騰貴に、 ア 島

nu ?aru sje:neN-nu na: niNzju: hwataraci-N mutusiN-
の ある 青年が もう 年中 働いても 元金

ja kiriraN muru na: ri:-bake: kiriN saku:-jaraba
は きれず、 全部 も 利子ばかり きれる 状態であるならば、

(6)
ma:-ra hiNgiti ?izi na: a: simaziri?ina:ka-hiN-gati
ここから 逃げて いて、 もう アー 島尻田舎あたりへ

(7)
hi:jo: hici ?unu ziN harariba nairu-rici hiNgite:nu
日傭 して その お金 払えば よいのだといって 逃げた

(8)
N: sje:neN-ga tai miqcjai wute:-gisje:N-hu:zi-je:biN
ン、 青年が 二人 三人 いたつたらしいようです。

?aNsa:i na: simaziri-nu ?ina:ka-ri ?ja:bi:-siga ?uri
そこで もう 島尻の 田舎と いますが, そこを

?ina:ka ?ina:ka so:bi:-siga ?ina:ka-Ngati hiNgiti
田舎 田舎 しております, 田舎へ 逃げて

?izi ?ama-ne:ti hi:jo: hici je: ?une:ti ?uNcju:-nu
行って, あそこで 日傭 して, エー, その時 その人の

katamitute:nu rusi:ru-ja je: guhjaqkwaN-ri ?ja:bi:-
負っていた 身代金は エー, 五百貫と います

gaja: zju:jeN guhjaqkwaN-ri ?ja:bi:-siga guhjaqkwaN-
かしら, 10円, 五百貫と いますが, 五百貫

jate:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-siga guhjaqkwaN mo:kiti ci:
でよかったらいいのですが, 五百貫 儲けて きて

rusi:ru taqkuri na: ru:-nu mi:mi: nati na:
身代金 払い入れて もう 自分の 身体に なって もう

?iciniNmae nati ma: tabi:Ngati ?izitaN-runu hwanasi:
一人前に なって, ここから 旅へ 出たという 話を

cjui kiki kiki hici ?aNsa:i na: simaziri ho:meN-
一人 聞き 聞き して そこで, もう 島尻 方面 (9)

gati no:ka-N ja:-ne:ti sa:ta:si:-nu tima: mo:kiti
へ, 農家の 家で 砂糖製造時期の 手間賃を 儲けて,

haNsi ti:cina: ti:cina: rusi:ru kira:ci-zi na:
こうして 一つずつ 一つずつ 身代金を きらして行って, もう

na:ru:ru: ?u: nate:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-siga nama-kara
各自の身体に ウー なったらしいのですが, 今から

kaNge:-ne:ti Nna naNzju:niN hataraci-N na: Ncja
考えると, なんと, 何十年 働いても もう なるほど (10)

mutusiN-ja kiriraN tara ri-bake: kiritaN-ri
元金は きれず, ただ 利子ばかり きれたと

?i:-ne:tija je: na: ta:ru-ga-jataN-te:kaN ?aNcinu
言うと エー, もう 誰がだったとしても あのような

kutu: ?ata:-gaja:-ri ?umui-sabi:-siga na: ?unu
ことが あったかしらと と思いますが、 もう その

to:zi-ja ?ucina:-jataN-te:kaN na: mo:kiruku:ma-N ne:N
当時は 沖縄だったとしても もう 儲けるところも なく、

mo:kirariN tukuma: ?ariba-ru mo:ki-ru (su:ru)
儲けられる ところが あればぞ 儲けぞ (する)

sa:bi:te:-siga mo:kirariN tukuma: ne:nu mata du:-nu
しましたが、 儲けられる ところも なく、 また、 自分の

na piNso:muN-nu kakaisi-ja ru:-nu kwa:-nu
もう 貧乏者が かかるのは〔頼りにするのは〕 自分の 子に

kakairi:ru cju:-nu muN nusumaraN na: haNsi
かかれるのであって、 人の ものも 盗まれず、 もう、 こう

so:ti-N na: zinu: katu:ti je saNne: naraNte:-gisjeN-
していても もう お金を 借りて エ、 しないと いけなかったらしい

hu:zinu ?u: zirai-nu ?ate:biN je: ?uN kutu
ような ウー 時代が ありました。 エー、 その こと

hwanasi: si:-ne:tija na: nama-nu waraNcja:ta:
話 すると、 もう 今の 子供達は

cja:siN ?uri: wakai-ja saNra-ri ?umuibi:-siga
どうしても それを わかりは しないだろうと と思いますが、

?ataN-runu hwanasi:-rake-ja na: zizicu-nu N: hwanasi:
あったという 話だけは もう 事実の ン、 話、

(11)
na si:kuzima-jatiN zuqtu na: tsutae kiraqtiN
もう 瀬底島でも ずっと もう 伝え 来ている

hwanasi:-(je:)-je:biN
話 (エー)です。

4. 下男奉公についての笑い話と悲しい話

解 説：苦しい下男奉公という生活の中であったいろいろの笑い話や悲しい話について、話者が伝え聞いているところを述べている。

je: namahudu* Neja na: ziniNkwa-nu ?awarina kutu:
 エー、 今ほど なるほど もう 下男子の あわれな こと、

hwanasi:-N N: ?aibi;-siga ?unu: waraibanasi:-N
 話も ンー ありますが、 その一、 笑い話も

(1)

?ari:ba mata hizjo:nu na de:zina je: ?awaribanasi-
 あれば、 また、 非常な もう 大変な エー、 あわれ話

N ?aibiN cjo:ru hicigwaci-nu na: kju:-nu
 も あります。 丁度、 7月の もう 旧暦の

hicigwaci-nu ?asi:bi-jate:-gisjeN-hu:zi-je:bi-siga na
 7月の 遊びだっただけですが、 もう

hwaNta?uri ?ata:ti hici-hicja:kutu na: ziniNkwa
 思いがけぬうるおいに あたって してしたところ、 もう 下男子を

?asibasa:nu na: piNma:-hara ?izi:ti ?izi haNra
 遊ばせず、 もう 昼間から 出て 行って かずらを

?uiracje:-gisjeN-hu:zi-je:biN-muNnu ?aNsi na: ju:
 植えさせたいようですのに、 そこで もう 夜に

?iqciN na: je:Nsa:-N si:bare:ru hicigwaci?asi:bi-N
 入っても もう 盆踊りも しよう、 7月遊びも

si:bare:ru-rici so:-siga na: nusi-ja ke:sanu
 しようといっ ているが、 もう 主は 帰さず、

hicjakutu na: ?unu ziniNkwa:-ga “ ri: kure: na:
 そこで もう その 下男子達が “ どうだ、 これは もう

(2)

wacja:ku si:ba nairu”-rici kaNra muru sakasima?ui
 いたずら したら よい”といっ かずらを 全部 逆植え

hici hicje:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-siga je: na:ʔaqcja:
して したらしいようですが, エー, 翌日

nusi-nu ʔizi mici hicjakutu Ncje na: sakasima ʔuiti
主が 行って みて したところ なるほど もう 逆に 植えて

ne:nu na: ʔure: ju:namuNre:ru
しまつて もう, それは 世の吉凶によるんだ [かずらの育つ育たないは世の吉凶による

(3)
んだ] haNnagito:ke:-rici ʔaNsimama: hicjakutu na:
ほつておけつとつて, あのまま したところ, もう,

(kaN N:) haNra-re:kutu na: na: mui-to:N-ba:-je:biteN-
かずらですつから, もう もう 生えているわけです

sai je: ʔuri-ga mata ʔumu: ʔimikici ʔiqci-
ね。 エー, それがつ また 芋がつ 大麥 入つて [突つて]

jo:-sai ʔurihicja:tu na: ʔuri-N ti:ci-nu
ですつね。 そうしたつら もう それも つつの

waraibanasi:-je:bi:-siga. na:ti:ci-ja so:ru na:
笑つ話ですつが, もう一つは 丁度 もう

ziniNgwa cju:-ne: sikarari:si-ja ʔaNto:zi na: a:
下男子 人につ 使われるのは あの時つ とも アー

kumi:-N ne:nu me:-N ne:nu ʔatai (re: je:)-jeteN
米も なく, 米も ない ぐらつであつた

zirai-je:bi:tu na: so:gwaci-nu ʔwe:si na: ʔuri-ru
時つですつから, もう 正月の 豚肉, もう それぞ

macikaNte:-jate:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-muNnu so:ru
待つ速つしいだつたらしいようですつのに, 丁度

so:gwaci-nu zju:juqka-nu hi: na: kima:ti ʔunu:
正月の 14日の 日につ もう 決つて その

ʔwa:si-ja na mahai-ne: ʔiNti ku:si-ja na nanahaki
豚肉は もう おわんにつ 入つて くるのは もう 7切れ,

na: me:niN-me:niN kimati:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-siga
とも 毎年 毎年 決つていたらしいようですつが,

?a_N cjuke: na: na me:ni_N na: nanahwaki-re:bi:tu
そこで 一回 もう もう 毎年 もう 7切れですから

?uri-ga ?uho:ku nai_N-ba: ?ai-ga su:ra-ja:-rici ?unu
それが 多く なる時も あるか しらねとって、 その

hwanasi: sa:-gasine: ?unu ziniNgwata: ?acimatuti
話を しながら その 下男子達が 集っていて、

?aru kine:-nu-re:bi_N-ro: N: ?acimatuti na: hanasi:
ある 家庭のですよ、 ン、 集っていて もう 話

(4)

su:te:-gisje_N-hu:zi-je:bi-mu_Nnu hizjo:ni kunu koqkeina
していたらしいようですのに、 非常に この 滑稽な

ni:sje:-ga wuta_N N: wute:-gisje_N-hu:zi-je:bi-siga
青年が いた ン、 いたらしいようですが、

"tukajuqka-nu sisi-ja saramati-nu mihaki sira_N
" 14日の 肉は 定っての 3切れ 知らず

nanahaki-N ?ai-ga su:ra"-rici ?unu wakasje:nu
7切れも あるか しら"とって その 若い

ni:sje:-nu na tuNga-ne:ti ?uta hicje:-gisje_N-hu:zi-
青年が もう 台所で 歌 したらしいよう

je:bi-mu ?aNsa:i ma:-nu jikiganusi-ja ?uri kici
ですのに、 そこで この 男の主人は それを 聞いて、

"to: na: ?uNta:-ga ?ju:nu ?uta kici miriba me:ni_N
"なるほど もう それ達が 言う 歌を 聞いて みれば、 毎年

(5)

na: Ncja sisi: ?uqsa-na: kama:ci naraNkutu na:
もう なるほど 肉を それだけずつ 食べさせずは いけないから もう

ku:-nu ku:-nu-ba:-ja ?ihi-ja na: ?uho:ku kamasje"-
今日の、 今日の時は 少しは もう 多く 食べさせなさい"

rici ru:-nu kunu: (Nnizi) ?aN ziniNkwa juri sisi-N
とって、 自分の この一 あの 下男子を 呼んで、 肉も

?uho:ku naci kamasimita_N-ricinu ka:cja_N-ricinu hanasi:-nu
多く して 食べさせたという 食べさせたという 話が

?aibiN na:ti:ci-ja mata ?anu: ?uhumugi-rici ?ure:-ja
あります。 もう一つは また あのー 大麦とって、 それは

siguNgwaci-ne: turari:nu ?uhumugi (ji:)-je:bi:-
4・5月に とられる〔収穫できる〕 大麦 (イー), です

(6)
siga ?uhumugi-ja ?usi-ne: ?iNti hici sosite a: na:
が, 大麦は 白に 入れて 携いて そして アー もう

?wa:bi-nu ha: turiba-ru na pirame:-tuka hici
上の 皮を とればぞ もう 麦飯とか して

ka:riN-ba:-je:bi:tu (?uri kumi:) N: ?uhumugi
食べられるわけですから ンー 大麦を

sikacje:-gisjeN-hu:zi-je:bi:-mu na: ?anto:zi-ja
携かせたらしいようですが, もう あの当時は

wakaraN tara sikikurusiba na ?atu ha: mugin-rici-
わからず, ただ 携きつづけると もう 後 皮が むけるとって

(7)
jate:-gisjeN-hu:zi-je:bi-siga na: juru:junaka-mari:-N
だったらしいようですが, もう 夜夜中までも

na: mugi: (sika) ?usi-ne: sikasaqti hicja:tu ?unu
もう 麦を 白に 携かされて したところ, その

jinaguwara:bi-nu ruku ?awa:ri-nu ?ui-ni na: nara:
女の子が あまりの あわれさの うえに もう 涙が

?izi:ti ci: ?unu nara:-nu siNre:-siNre: ?usi-Ngati
出て きて, その 涙が 次第 次第に 白へ

?iqci hicihicja:tu ?unu sikijaqsiku nati ?izi
入って, そしたら その 携きやすく なって いて

tare:ma na: ?unu: ?uhumugi-N cjuraku nati ?uN
じきに もう そのー 大麦も きれいに なって, その

pirame:-N hici ka:riN-gutu nataN-rici hwanasi:
麦飯も して 食べられるように なったとっての 話。

?uri-kara je: na: ?unu ?uhumugi-ja mizi ?iNti
それから エー, もう その 大麦は 水 入れて

siki:ba he:ku ?unu: ka:riN-gutu naisa-ja:-rici mizi
掲げば 早く その一 食べられるように なるのだねとって、 水

?iNti sikhwazimataN-ru?nu hwanasi: na: mukasi-nu
入れて 搦きはじまったとい 話。 もう 昔の

na: mo:kikata:-N ne:N ziniNkwa-ta hici na: ?e:kiNcju
もう 儲けるところも なく、 下男子と して もう 資産家に

?aNsi sikarari:si-N huNto: na: ?iru?iru-nu
あのように 使われるのも 本当 もう いろいろの

?awaribanasi: mata ?iru?iru-nu waraibanasi: nuNkui
あわれ話、 また いろいろの 笑い話 いろいろ

?ai-ja sa:bi:-siga na: ?uri-ja ?uri-tu hici na:
ありは しますが、 もう それは それと して、 もう

mukasibanasi:-tu hici na kiku:nu ?uqsa-sje:-jatiN
昔話と して もう 聞く だけででも

simi-ja saN-gaja: mata ?uri kici nama-nu
すみは しないかしら、 また それを 聞いて 今の

waraNcja:ta:-ga na: mata ti:ci-nu sje:siNteki-nu
子係達が もう また 一つの 精神的の

kjo:?iku nari:ba mata ?i: hanasi: ?araN-gaja:-ri
教育に なれば また 良い 話 ではないかしらと

?umuto:N sire:-je:biN
思っている 次第です。

注

I 上間幸次郎氏の自然会話

1. 瀬底島のノロと門中について

- P 8 (1) ?aNsa: ?aNsaba の縮まった形。?aN は《あれ》sa は《する》の未然形, ba は仮定条件を表わす助詞。直訳すれば《あゝすれば》となる。
- P 8 (2) 《資産家》のこと。sisuku?e:ki: は家号で, 一名 ?aga:ri ともいう。
- P 8 (3) nuro: nuru ja 《ノロは》の縮まった形。
- P 8 (4) rici ri?ici の縮まった形。ri は《と》, ?ici は《言って》。
- P 8 (5) ga 疑問を表わす係助詞。その結びの活用形式の語尾は必ず -a の形をとる。ga je:misje:tara
- P 9 (6) 共通語的。方言では kuci: という。
- P 9 (7) 地名, 瀬底島の略図参照。
- P 9 (8) 家号, sisuku?e:ki: ともいう。
- P 9 (9) 地名 瀬底島の略図参照
- P 9 (10) 家号 現在のノロの出ている家である。
- P 9 (11) 家号
- P 9 (12) ?ure: ?uri ja 《それは》の縮まった形。
- P 9 (13) 地名, 瀬底島の略図参照。
- P 9 (14) 本部町字浦崎のこと。
- P 9 (15) hici:tu hici hicja:tu の縮まった形。hici 《して》hicja:tu 《したら》, 直訳すれば《してしたら》となる。

- P 9 (16) ru:tu ri ?ju:nutu の縮まった形。ri は《と》 ?ju:nu は《言う》 tu は《と》
- P 10 (17) 共通語的。方言では sizjajinaguNgwa となる。
- P 10 (18) 家号
- P 10 (19) 家号，瀬底の根所といわれている。
- P 10 (20) 《ウフジユクの立ちはじまりは……》とうちだしているが，以下述べていることは，その立ちはじまりについてではなく，ノロの争いについて述べている。話者の頭の中には《ウフジユクの立ちはじまり》と《ノロの争い》についての二つの主題が入りまじっていたようである。
- P 11 (21) 家号
- P 11 (22) ?are: ?ari-ja 《あれは》の縮まったもの。
- P 11 (23) nururuNci という拝所の一角にある屋敷のこと。
- P 12 (24) pi: が純瀬底方言である。本部町渡久地方言の影響で hi: となっている。
- P 12 (25) 共通語的。方言では mutuja: という。
- P 13 (26) 神がその存在を入々に告げ知らすために，ウフユミシヌグイの祭りの夜に鐘を打ったという。これをエンガニーと呼んでいる。
- P 13 (27) 家号。nururuNci という拝所の近くにある家。
- P 13 (28) 共通語的。方言では ruku となる。
- P 13 (29) 共通語的。方言では ?ama となる。
- P 13 (30) ?uhujumi sinu:gu 7月の中旬に3日間続いたの祭りがあるが，それをいう。?uhujumi は祭りの最初の日に，各家ごとに餅をつかって，各々の資産に応じてそれをウチグシク山というところへ奉納する儀式をいう。sinu:gu または sinugui は，次の日に，粟や稷でつくったどぶろくをウチマンモーという広場で神

に奉げる儀式をいう。女の神人が馬に乗って西の浜に下りて行って祈りをするのもその日である。

最後の日は haNbuto:ki といって、男の神人が各家をまわって悪風を払う儀式がある。白太鼓もその日に催される。

- P 13 (31) 地名、一名ウチグシク山ともいう。略図参照。
- P 13 (32) hure: huri-ja 《これは》の縮まった形。
- P 14 (33) 共通語的。方言では zjo:i となる。
- P 14 (34) muno: munu-ja 《ものは》の縮まった形。
- P 14 (35) wane: wani-ja 《私は》の縮まった形。
- P 16 (36) ?ukamiguto· ?ukamigutu-ja 《御神事は》の縮まったもの。

2. 初代ノロについての逸話

- P 17 (1) ?uNcjo: ?uNcju:-ja 《その人は》の縮まった形。
- P 17 (2) 地名、略図参照
- P 17 (3) 瀬底島と沖繩本島とにはさまれた海峡、今でも台風の時には船舶がよく避難する。
- P 17 (4) ha:tuti 直訳すれば《かかっている》となる。
- P 17 (5) hja: 相手をさげすみ、言いけなす時に用いる終助詞。
- P 17 (6) zjaNpa 中部読谷村の西側に突き出た岬。那覇港へ向う船はそこをまわっていく。普通でも波が高いところである。
- P 18 (7) ?ato: ?atu ja 《後は》の縮まった形。

II 上間真好氏の自然会話

1. 島の概況

- P 20 (1) kara 瀬底方言ではharaとなる。他方言(主に本部町渡久地方言)の影響
- P 20 (2) kai 瀬底方言ではNgatiとなる。他方言の影響
- P 20 (3) hazimiti hwazimiti が純瀬底方言である。
- P 20 (4) 共通語的。後でmuruと方言で言いなおしている。
- P 21 (5) rinu ri ?ju:nu 《という》の縮まった形。
- P 21 (6) kura:bi 《比較》の体言が入るべきであるが、ここではそれが欠けていて不自然な表現法となっている。
- P 21 (7) 本部町字健堅にある川。
- P 21 (8) 共通語的。方言ではkura:siとなる。
- P 21 (9) 共通語的。方言ではhunuとなる。
- P 21 (10) ke:ga: 直訳すれば《食う川》となる。飲み水をためた池のこと。
瀬底方言では《池》もha:となって、共通語の《川》に対応する形式を用いている。
- P 21 (11) 共通語的。方言ではmitukuruとなる。
- P 21 (12) huto:bi: 瀬底方言ではhuti:bi:となる。他の方言では《掘っている》《書いている》等はhuto:N, kacjo:Nとなるが、瀬底方言ではhutiN, hacinで-O:-の形はとらない。
- P 22 (13) 共通語的。方言では?ai ?ju:nuとなる。
- P 22 (14) ne:《に》がくるのが自然である。
- P 22 (15) ri 《と》がくるのが自然。
- P 22 (16) hwaru が瀬底方言である。
- P 23 (17) 浜崎(健堅)と瀬底とにはさまれた海峡。

- P 23 (18) 櫂を漕いで進める舟。
- P 23 (19) maNnata:buku maNna は《満名》で地名、本部町字並里のこと。
 ta:buku は《田んぼ》で満名にある田んぼのことをいう。
- P 23 (20) karute:nu 瀬底方言では ke:te:nu となる。他方言の影響。
- P 24 (21) hwanasi: が瀬底方言である。
- P 24 (22) 共通語的。 方言では ?ubirazi 《突然、思いがけない》を用いる。
- P 25 (23) 共通語的。 方言では ?uqsahiciN となる。
- P 25 (24) 共通語的。 方言では muqtu となる。
- P 26 (25) 共通語的。 方言では ?izja:nu となる。
- P 26 (26) 共通語的。 方言では kuru:ma である。
- P 26 (27) 共通語的。 方言では hunu となる。
- P 26 (28) 地名，略図参照。
- P 26 (29) r:nu ri?ju:nu 《という》の縮まった形。
- P 26 (30) 共通語的。 方言では so:ru となる。
- P 26 (31) hajabukija: が瀬底方言である。
- P 28 (32) 共通語的， 方言では simaiN 《終わる》を用いる。
- P 28 (33) 地名，略図参照。
- P 28 (34) 地名，略図参照。
- P 28 (35) 共通語的。 方言では si:tu: となる。
- P 38 (36) 共通語的。 方言では zjo:to: を用いる。
- P 29 (37) 共通語的。 方言では ja: 《家》を用いる。
- P 29 (38) 共通語的。 方言では Ncja となる。
- P 29 (39) rito: N kaNkei re 共通語的。方言では hwanarizima-nu
 cigo:sai 《離れ島の都合で》となる。

- P 29 (40) 瀬底方言では hajo:ti となる。
- P 29 (41) 共通語的。方言では ?imikici となる。
- P 30 (42) 一定のグループで砂糖製造のために建てた家、そこには砂糖製造に必要ないろいろの道具がそなえられている。
- P 30 (43) kibi-nu ?aqsaku 共通語的。方言では wugi: kwa:suN を用いる。
- P 31 (44) 共通語的。方言では nama hara 《今から》となる。
- P 31 (45) 共通語的。方言では wugi: である。

2. 瀬底島の年中行事について

- P 32 (1) nururuNci は《ノロ殿内》で、そこはノロがいつも拝んでいる。拝所の一つ。略図参照。
- P 32 (2) nururuNci の東側にある森。その森の中に一つの拝所がある。
- P 32 (3) 拝所の一つ。伝えによると唐に関係ある神を祭っているとのこと。
- P 32 (4) 渡船の発着する浜の近くにある拝所。
- P 32 (5) 島の西側の森の中にある拝所。一名 mja:tuja?ugwaN ともいう。
- P 32 (6) 島の南側の森の中にある拝所。
- P 32 (7) ?uhu?ugwaN 男女の神人と区長を加えた人数で7御嶽をまわって拝む儀式。年2回行なわれる。
- P 32 (8) watakusi?ugwaN 男女の神人が nururuNci の拝所とウフジユクにあるアサギという拝所を拝む儀式。
- P 33 (9) 共通語をそのまま方言化した形。方言では ?uri hara という。
- P 33 (10) sika:sani 旧暦12月に男女神を個人宅に招いてごちそうする儀式。現在はなくなっている。
- P 33 (11) 共通語的。方言では sa:bi: siga 《しますが》を用いる。
- P 33 (12) 共通語的。方言では kara:ta という。
- P 34 (13) 共通語的。方言では ke:so: を用いる。

- P 34 (14) nuruganasi: - ganasi: は尊敬を表わす接尾辞。《太陽》
には tira というが、尊敬をこめたときは tira-
ganasi: となる。
- P 35 (15) この je: 以下は次のようになる。 je:bi:ra wakajabiraN
siga 《であるかわかりませんが》の下線の部分が
欠けている。
- P 36 (16) 男神の中で一番上位の神人。
- P 36 (17) 共通語的。 方言では kwa:ma:ga となる。
- P 37 (18) kaNti 瀬底方言では haNti となる。他方言の影響。
- P 37 (19) 祈禱をする際のとなえことば。意味は不明。
- P 38 (20) 地名。ある一定の広場がある。略図参照
- P 39 (21) to:kaci 瀬底方言では to:haki である。他方言の影響。
- P 40 (22) 共通語的。 方言では ?urihara 《それから》を用いる。
- P 40 (23) 共通語的。 方言では huri となる。
- P 41 (24) 共通語的。 方言では simai 《終り》または ?icibaN ?atu
《一番後》を用いる。

3. 下男奉公について

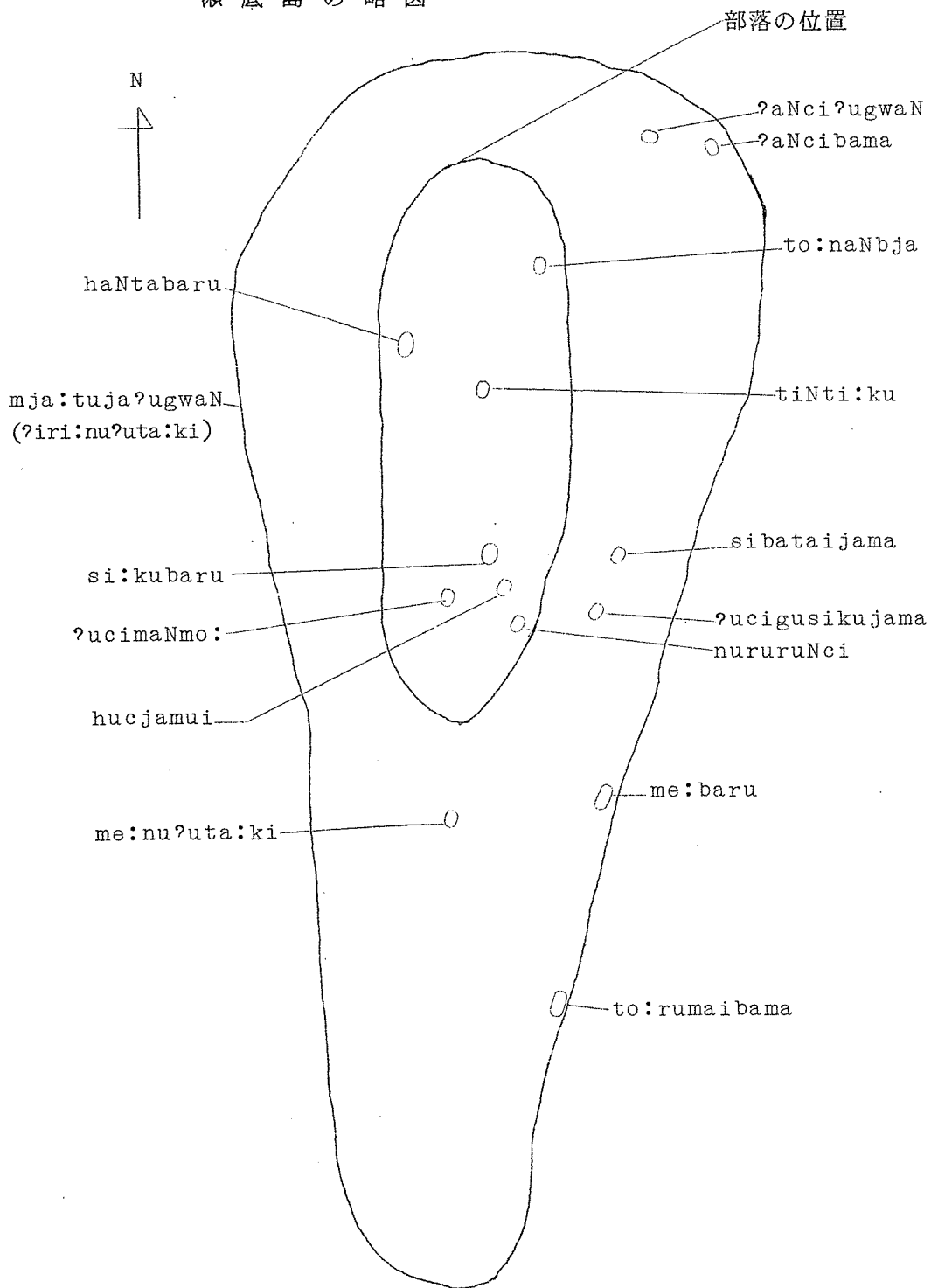
- P 42 (1) ziniNbu:ku: 直訳すれば《下人奉公》にあたる。zinaNbu:
ku:と同じ。
- P 42 (2) kakarumuN 瀬底方言では hakarumuN となる。他方言の影響。
- P 44 (3) 共通語的。 方言では ?ikitutu:mi となる。
- P 45 (4) katamiti 瀬底方言では hatamiti となる。他方言の影響。
- P 45 (5) 共通語的。 方言では hunu となる。
- P 45 (6) hara 《から》の ha が脱落した形。
- P 45 (7) harariba 瀬底方言では hwarariba となる。他方言の影響。
- P 45 (8) 共通語的。 方言では ni:sje: という。

- P 46 (9) 共通語的。 方言では hiN 《あたり》を用いる。
- P 46 (10) hataraci 瀬底方言では hwataraci となる。他方言の影響。
- P 47 (11) 共通語的。 方言では huNto: 《本当》を用いる。
- P 47 (12) 共通語的。 方言では nagare: 《長く》を用いる。

4. 下男奉公についての笑い話と悲しい話

- P 48 (1) 共通語的。 方言では re:zina という。
- P 48 (2) kaNra 瀬底方言では haNra という。他方言の影響。
- P 49 (3) haNnagito:ke: 瀬底方言では hwaNnagituke: となる。他方言の影響。
- P 50 (4) 共通語的。 方言では te:hwa という。
- P 50 (5) kama:ci 瀬底方言では ka:ciとなる。また、他方言の kamasje:《食べさせなさい》kamasimitaN《食べさせた》は ka:sje:, ka:cjaNとなる。
- P 51 (6) 共通語的。 方言では ?urihara《それから》を用いる。
- P 51 (7) juru:junaka 瀬底方言では juru:junahaとなる。他方言の影響。

瀬底島の略図



非 売 品

1971年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

115 東京都北区稲付西山町